

事 業 報 告

——平成23年度——



シンボルマーク

人の動きの中にあふれる生命力を表現しています。

財団法人横浜市総合保健医療財団

指定管理施設

横浜市総合保健医療センター

横浜市神奈川区精神障害者生活支援センター

横浜市磯子区精神障害者生活支援センター

I 利用状況

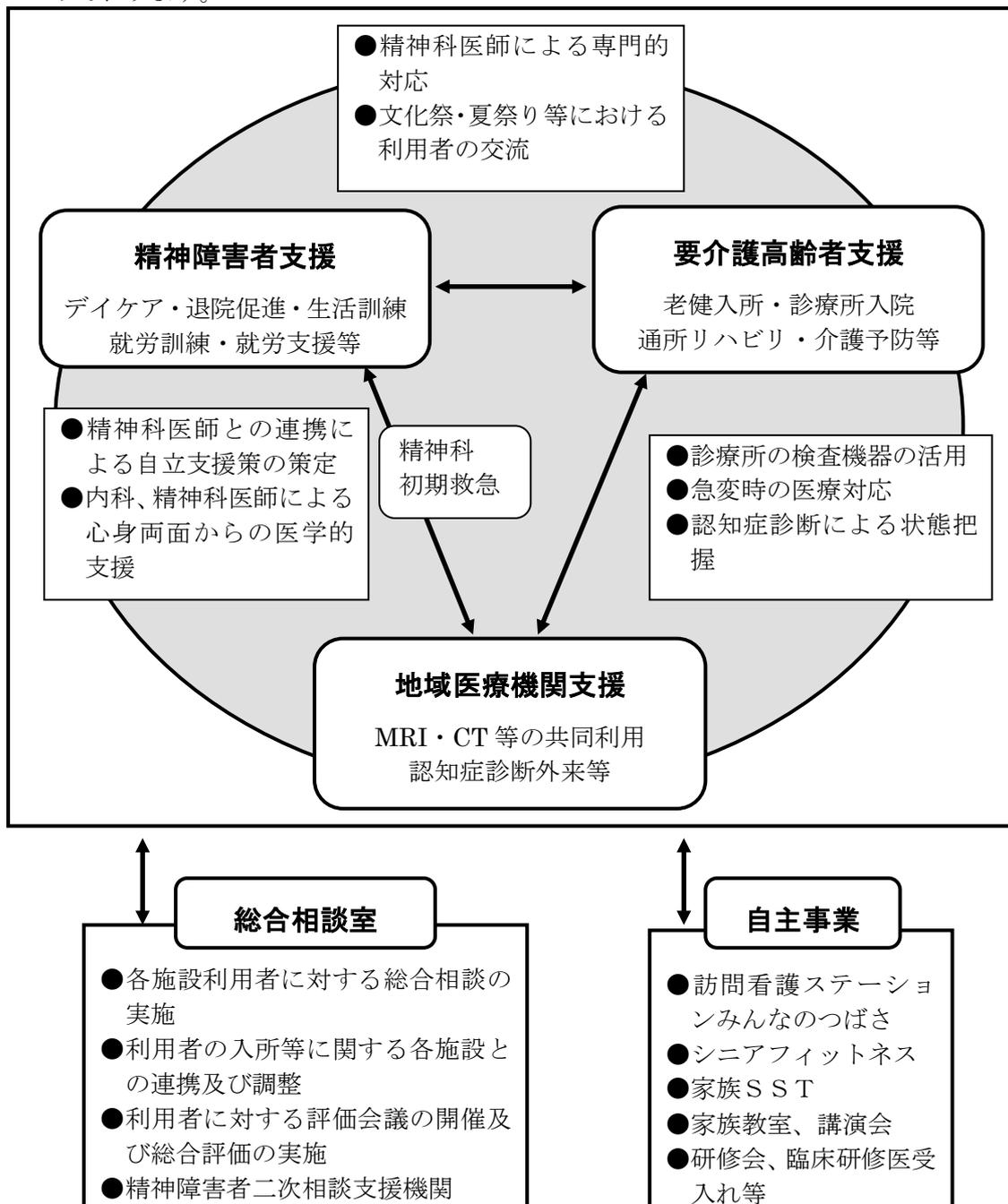
平成23年度は、精神障害者支援事業 延 127,412 人、要介護高齢者支援事業 延 40,674 人、地域医療支援事業 延 11,845 人、自主事業 延 7,684 人の利用がありました。

事業	内 訳	年間延	1日平均	稼働率	定員
		利用者数 (人)	利用者数 (人)	(%)	(人)
精神障害者支援事業	精神科デイケア	9,211	37.8	94.4	40
	宿泊型自立訓練	4,695	12.8	64.1	20
	自立訓練(生活訓練)	1,995	—	—	12
	短期入所	1,853	5.0	83.3	6
	就 労 訓 練	4,773	19.9	82.9	24
	職 場 実 習	556	2.3	—	—
	就労支援センター	4,531	—	—	—
	神奈川区生活支援センター	36,481	103.1	—	—
	磯子区生活支援センター	28,353	80.1	—	—
	港北区生活支援センター	34,964	98.8	—	—
	合 計	127,412	—	—	—
要介護高齢者支援事業	入 所	28,731	78.5	98.1	80
	施設サービス	25,259	69.0	—	—
	短期入所	3,472	9.5	—	—
	通 所 リ ハ	4,916	15.8	79.2	20
	診 療 所 病 床	7,027	19.2	101.0	19
合 計	40,674	—	—	—	
支 地 援 域 事 業 医 療	認 知 症 診 断	815	—	—	—
	認 知 症 外 来	3,704	—	—	—
	生活習慣病外来等	4,508	—	—	—
	共同利用検査(放射線検査)	2,421	—	—	—
	共同利用検査(生理検査)	397	—	—	—
合 計	11,845	—	—	—	
自 主 事 業	訪 問 看 護	4,044	—	—	—
	シニアフィットネス	3,407	—	—	—
	家族SST	102	—	—	—
	認知症家族教室等	40	—	—	—
	ケアマネジャー研修等	91	—	—	—
合 計	7,684	—	—	—	

Ⅱ 横浜市総合保健医療センター管理運営事業

横浜市総合保健医療センターは、保健・医療・福祉の専門機関や関係団体と地域の皆様が有機的に連携し、在宅で援護を必要とする方々に対して、総合的、一体的なサービスを提供する「地域ケアシステム」を専門的・総合的に支援する目的で開設されました。

当センターは、「精神障害者支援」「要介護高齢者支援」「地域医療機関支援」の3つの事業・施設から構成されますが、これらは各々独立したものではなく、それぞれの機能を発揮するために相互に連携・協働し、一体となって在宅支援を行います。総合相談や自主事業、受託事業も3つの事業を直接、間接に支持するものです。また、家族教室や講演会などを通じ、疾病に対する正しい理解やその予防方法等の啓発にも努めております。



1 精神障害者支援事業

近年の障害者、特に精神障害のある方々を取り巻く状況は大きな動きを見せています。

障害者自立支援法による障害福祉サービスの再編のみならず、いわゆる社会的入院を余儀なくされている方々の地域生活への移行、あるいはうつ病による職業生活の中断など、精神疾患のある方々が直面する問題への関心が従来に増して高まり、それをいかに解決するかが大きな社会的課題になっています。それは、精神保健の課題がより身近なものであり社会全体で取り組むべきものという認識の広がりを表すものと言えます。

一方、横浜市の障害者プラン（第2期）では、「障害者が自らの意思で生活を決めることができる」「障害者が住み慣れた地域で生活を送れる」「障害者が安心して日々の生活を送れる」、これらを目指すべき社会と位置付けています。

こうした社会的課題を解決し目指す社会を実現するためには、多様なサービスを用意し、地域社会の中で統合的にかつ継続して提供する体制が不可欠です。総合保健医療センターでは、このような認識に立ち、精神障害のある方々が「地域のなかで、自分の生活のスタイルを自分で決めていける暮らしができる」ことをあるべき状態ととらえ、この考えのもと、以下の運営方針により精神障害者支援事業に取り組んでいます。

1 「人権」「主体性」を基本におく支援

利用者の人権を守り、それぞれの意思と選択に基づいた支援を行います。

2 「地域生活重視」の視点に貫かれた支援

利用者が生き生きと地域生活を送ることができるための支援を行います。入・通所型サービスでは利用期限を設け、短期間で目標を達成する支援を行います。

3 計画に基づく支援

利用者のニーズを適切に把握し、計画に基づいた支援を行います。

4 一人ひとりのニーズに合わせた支援

利用者個々のニーズに合わせ、医療・生活・就労の各事業が連携・協働しトータルな支援を行います。

5 他の社会資源との協働による支援

地域の支援ネットワークの一員として、他の社会資源との協働による支援を行います。

また、利用者の地域での生活に必要な継続的サービス提供体制を関係機関とともにつくります。

6 社会的課題を踏まえた先駆的な支援

常に社会的課題への視野を持ち、課題解決を図るための先駆的な支援技術・支援プログラム開発に取り組みます。また、得られた成果は積極的に関係機関に提供し、地域社会全体の支援技術向上を図ります。

また、平成23年度は、障害者自立支援法に基づく生活訓練施設の宿泊型自立訓練と自立訓練（生活訓練）の2事業を前年度に引き続き実施するとともに、各生活支援センターにおいて新たな機能として、「地域移行・地域定着支援事業（退院促進支援事業）」と「自立生活アシスタント事業」を実施し、より身近な地域での効果的な支援に積極的に取り組みました。

横浜市総合保健医療センター精神障害者支援施設では、精神障害者の医療、生活、就労にわたる市内唯一の総合的支援施設として事業を展開してきました。今後もその責務を認識し、当事者の支援を進めるとともに、積極的な啓発活動を通じて当事者が自らの選択と決定により生活することができる地域社会の基盤形成に努めてまいります。

(1) 精神科デイケア (定員 40 人)

精神障害を抱える人が、社会参加や生活の自立といった個別の目標や希望に近づけるように、グループ活動と個別面接を通じて、リハビリテーションを行っています。

グループ活動では、心理社会的治療を積極的に実施する機能を拡充しました。利用者各自の目標に向けて疾患別に、SST (対人関係の技能の獲得)、心理教育 (病気の知識と工夫の仕方)、集団認知療法、就労準備プログラムなどのプログラムを実施しました。

また、うつ病やうつ状態により休職している人を対象とした4か月間の「復職サポートプログラム」は、開始から平成24年3月までに10グループが終了しました。79人が参加し、内73人がプログラムを完遂し修了しています。プログラムの効果検証及び改善を目的とした追跡調査も行いました。また、修了者に対する「フォローアップ事業」として、平日の夜間帯に、神奈川区及び港北区生活支援センターで毎月1回ずつミーティングを実施する等、当財団の機能を活かした支援も行いました。

利用者の御家族に対しても、精神疾患の理解を促し対処技能を高めるための「家族プログラム」を毎月1回実施する等、当事者支援に限定しない多面的な支援を展開しています。

ア 平成23年度のデイケア利用者状況



*本表は23年度中における利用開始、登録、終了の状況をそれぞれ示したものである。従って終了者は23年度中の利用開始者とは限らない。

イ 一般デイケア プログラム 実施状況

プログラム		実施回数		出席人数	
スポーツ		89		1,015	
創作系		140		1,375	
専門講習		180		1,318	
話し合い		127		1,110	
調理		61		420	
行事関係		22		484	
レクリエーション		83		1,176	
外出		6		47	
音楽療法		19		192	
心理社会的 プログラム	心理教育(疾病教育/社会資源)	99	21	696	178
	SST(ストレスケア/基本訓練/ステップバイステップ/就労/モジュール)		35		197
	就労準備(基礎/直前/基礎トレーニング)		22		178
	集団認知療法(基礎/応用/発展)		21		143
合 計		826		7,833	

ウ 復職サポートプログラム

(ア) 平成 23 年度 実施グループ数及び利用者数

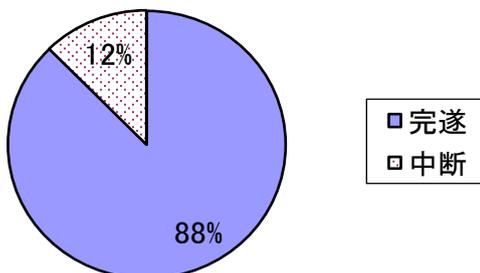
実施グループ	3 (8期、9期、10期)	実人数	27人
--------	---------------	-----	-----

(イ) 修了者への追跡調査

平成 21 年 10 月の復職サポートプログラム開始時から平成 24 年 2 月までにプログラムを完遂した修了者を対象に、平成 24 年 2 月末に郵送によるアンケート調査を実施しました。その結果、修了者の約 64%が復職し、約 8%がリハビリ出勤や一般デイケアへの通所等のリハビリテーションを継続していることが解りました。

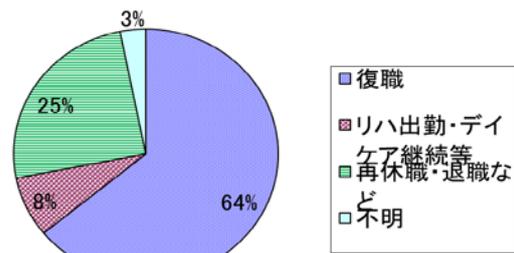
復職プログラムの完遂率 (9期まで)

完遂&繰上げ卒業 64人 中断9人



デイケア修了後の追跡調査

(平成 24 年2月時点)



(ウ) 復職サポートプログラムフォローアップ事業 実施状況

		1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	計
港北区生活支援センター	4月1日			2	1	1	4				8
	5月13日			1	1	2	2				6
	6月3日					2	1				3
	7月1日					2	1	2	1		6
	8月5日				1	2	1				4
	9月2日			1						1	2
	10月7日		1				1			1	3
	11月11日		1	1						3	5
	12月2日		1				1				2
	1月6日						1		3		4
	2月3日									2	2
	3月2日		1				1			1	3
											48

神奈川区生活支援センター	4月15日		1	1	1		1	1			5
	5月20日			1		1	1	4			7
	6月17日			4	1		1	4			10
	7月15日			2			1	2			5
	8月19日	1						2			3
	9月16日			1				2			3
	10月21日		1	1				2			4
	11月18日		1	4		1				1	7
	12月16日							2			2
	1月20日			2				1		1	4
	2月24日			1				4			5
	3月16日	1		1				3			5
											60

総計		2	7	23	5	14	14	32	1	10	108
----	--	---	---	----	---	----	----	----	---	----	-----

エ 家族プログラム 実施状況

昨年度に引き続き今年度も、原則毎月1回、一般デイケア利用者の御家族を対象にした家族支援プログラムを実施しました。「(障害当事者である)御本人の理解を深めるグループ」、「御家族のストレスをケアするグループ」、「話し合いグループ」の3グループ構成とし、年間を通じて多くの御家族に参加していただきました。

	出席家族 (人数)	プログラム内容		
		御本人の理解を より深めるグループ	御家族のストレスを ケアするグループ	話し合いグループ
4月	20 家族 20 人	精神科の病気を理解する	認知療法の手法を知る① (考え方の幅を広げる①)	参加された御家族から、気になっていることや、他の御家族に聞いてみたいことをテーマとして挙げていただき、自由に話し合います。
5月	10 家族 10 人	認知機能障害を理解する	認知療法の手法を知る② (考え方の幅を広げる②)	
6月	11 家族 11 人	薬について理解する	認知療法を用いて 御家族の課題を考える	
7月	12 家族 12 人	再発を遠ざける工夫	行動療法の手法を知る	
9月	15 家族 15 人	復習とまとめ	行動療法を用いて 御家族の課題を考える	
10月	14 家族 14 人	精神科の病気を理解する	認知療法の手法を知る① (考え方の幅を広げる①)	
11月	17 家族 17 人	認知機能障害を理解する 解決ミーティング	認知療法の手法を知る② (考え方の幅を広げる②)	
1月	17 家族 17 人	薬について理解する 解決ミーティング	認知療法を用いて 御家族の課題を考える	
2月	18 家族 18 人	再発を遠ざける工夫 解決ミーティング	行動療法の手法を知る	
3月	15 家族 15 人	復習とまとめ	行動療法を用いて 御家族の課題を考える	
総計	149 家族 149 人			

(2) 生活訓練（入所定員 26人）

精神の障害を持った方が地域での暮らし方を主体的に選択し、持続可能な地域生活を目指していく生活訓練では自立訓練と生活支援に関する事業を柱にしてその実現を支援しています。

ロングステイ（長期利用）は夜間の支援である宿泊型自立訓練（定員 20人）と日中の支援である自立訓練（生活訓練）事業（定員 12人）を組み合わせ、精神科病院からの退院を目指す方や、家族同居から単身での自立を目指す方々へ支援を行いました。利用者自身が備えている力や潜在的な力を見出し活かしながら、服薬や金銭管理、衣食住全般にわたる日常生活を想定した体験を重ね、必要な方には退所後の居所設定の支援を行いました。

ショートステイ（短期利用）は地域で生活されている方はもとより、精神科病院からの退院を目指す方も対象に含めるなど支援の幅を拡大し、利用者の生活状況に合わせた利用提供を行いました。

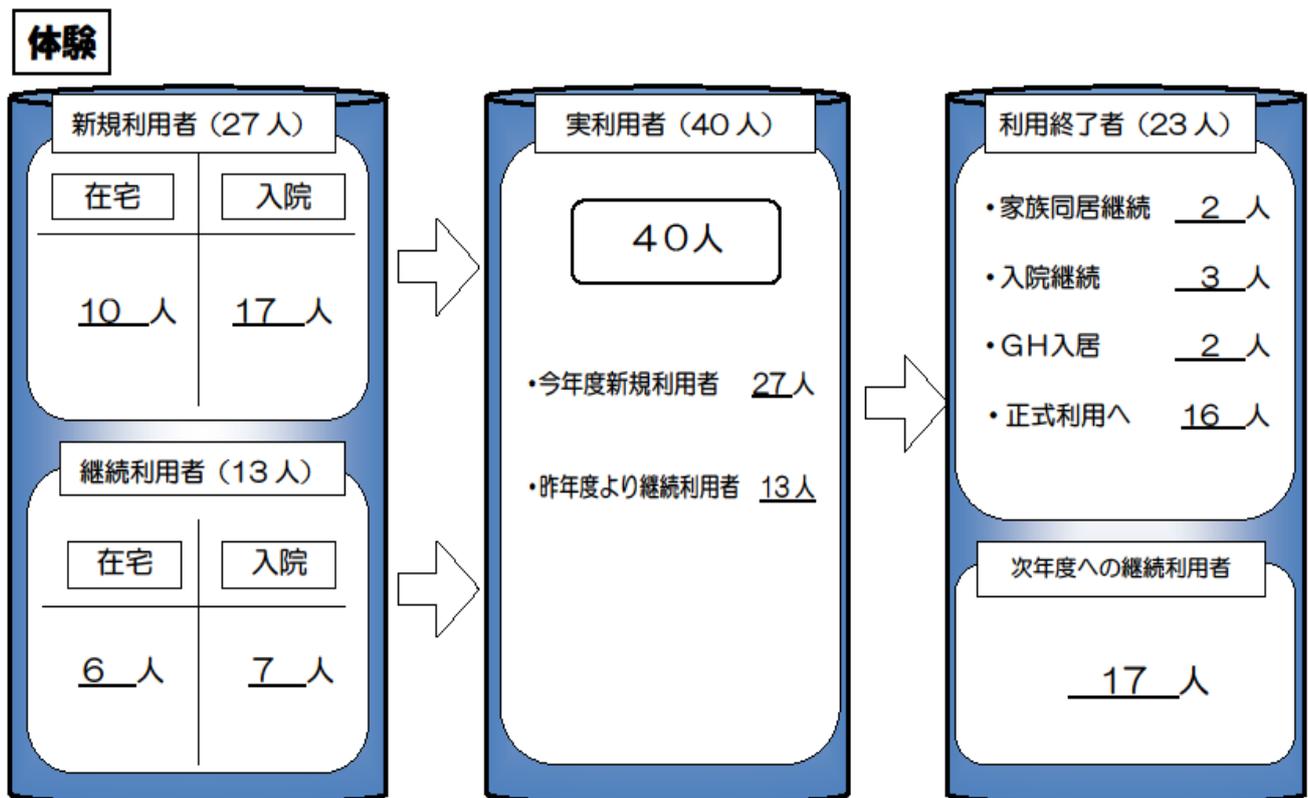
病院巡業「院内説明会」や出前PR活動を継続実施し、地域移行定着や様々な社会資源に関する普及啓発事業も行っています。

ア ロングステイ（長期利用）

(ア) 体験利用

ロングステイ開始前に利用者が利用目的や計画を考える期間として、ショートステイ（短期利用）の中に設けています。利用者がロングステイも含めこれからの暮らし方について様々な選択肢を考えるきっかけともなりました。（図1）

（図1 体験利用の利用者動向）



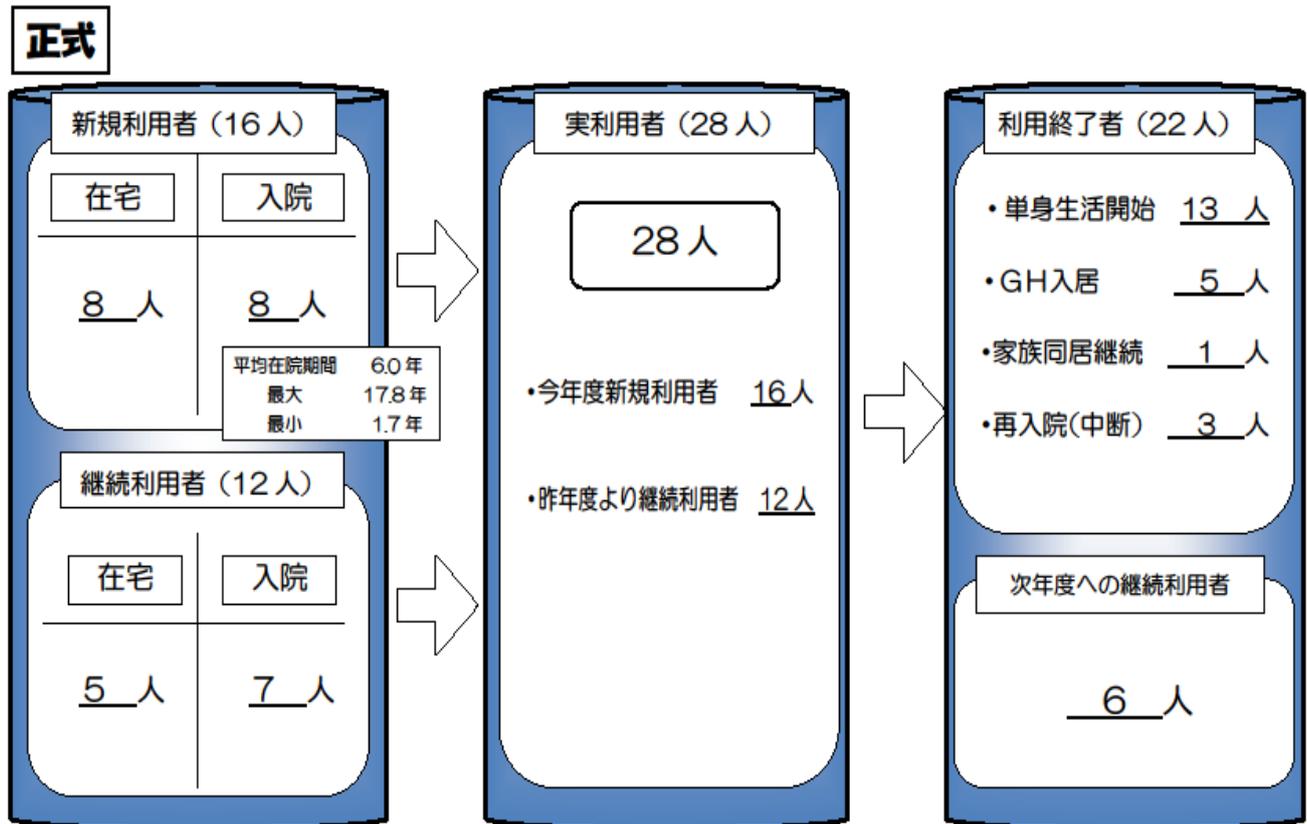
※本表は平成23年度中における新規、利用、退所の状況をそれぞれ示したものである。したがって、利用者及び退所者は平成23年度中の利用者とは限らない。

(イ) 正式利用

正式利用期間を原則 6 か月間と設定し、状況に応じて 3 か月単位で延長を可能とし、最長 1 年までの利用という期間設定が当生活訓練の特徴です。国の基準と比較して短期間の支援は利用目的や課題が明確になり、またより多くの方の地域生活移行を実現しています。(図 2)

※国の基準：標準利用期間原則 2 年間。

(図 2 正式利用の利用者動向)



※本表は平成 23 年度中における新規、利用、退所の状況をそれぞれ示したものである。したがって、利用者及び退所者は平成 23 年度中の利用者とは限らない。

(表 1 ロングステイ利用者動向)

ロングステイ 実利用者数	52 人
ロングステイ 延利用者数 (体験+正式)	9,702 人
ロングステイ 一日平均	26.5 人
宿泊型自立訓練 実利用者数	28 人
宿泊型自立訓練 延利用者数	4,695 人
自立訓練 (生活訓練) 実利用者数	36 人
自立訓練 (生活訓練) 延利用者数	1,995 人

	男性	女性
最低年齢	22 歳	21 歳
最高年齢	70 歳	65 歳
平均年齢	43.3 歳	42.9 歳
実人数	28 人	24 人

(表 2 自立訓練 (生活訓練) 動向)

(人)

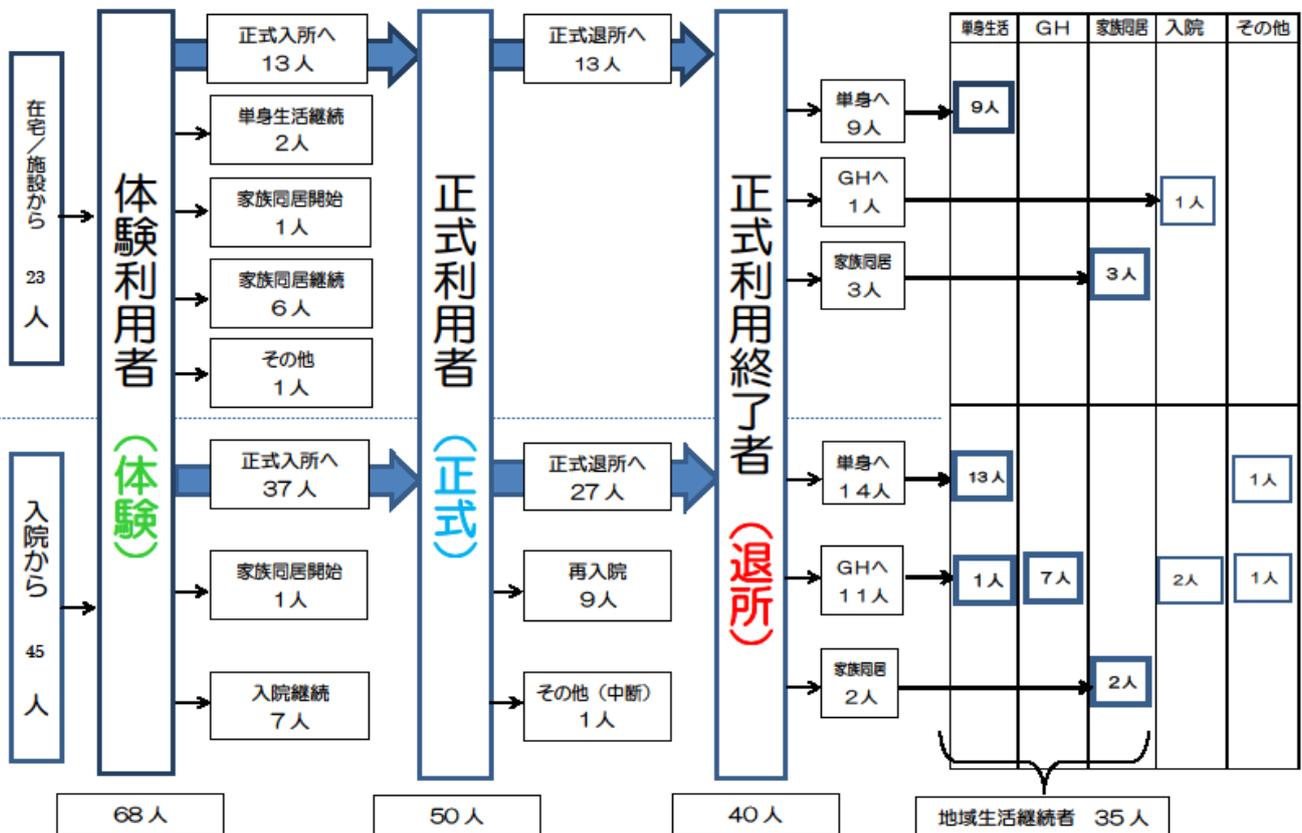
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	141	142	177	150	190	203	202	172	159	173	158	128	1995
内容	プログラム (集団援助)	基礎作りコース (火)					金銭管理・調理・生活リズム管理 等						
		体調管理コース (木)					再発予防・健康維持・栄養バランス 等						
		地域生活準備コース (金)					近所付き合い・防犯対策・物価を知る 等						
	個別支援	面接					定期面接・生活場面面接						
		同行					受診・区役所・賃貸業者 等						
		個別訓練					利用者の状況に合わせた調理方法 等						

(ウ) ロングステイ退所者における追跡調査

ロングステイ退所者のうち平成 19 年度に体験利用を開始した方から平成 21 年度に退所をした方を対象に平成 24 年 3 月に現在の生活状況を確認させていただきました。

対象者 40 人中 35 人が地域生活を継続されており、定着率は 87.5%となっています。(図 3)

(図 3 追跡調査)



イ ショートステイ（短期利用）

自立支援法に基づく短期入所事業（定員 6 人）を中心に、原則 1 週間以内の利用を通して、休息、自立生活の体験や、入院中の方を対象に「横浜市精神障害者地域生活推進事業」（横浜市単独事業）、見学の延長として家族や支援者と共に体験的に宿泊する付き添いショートステイ等を行いました。

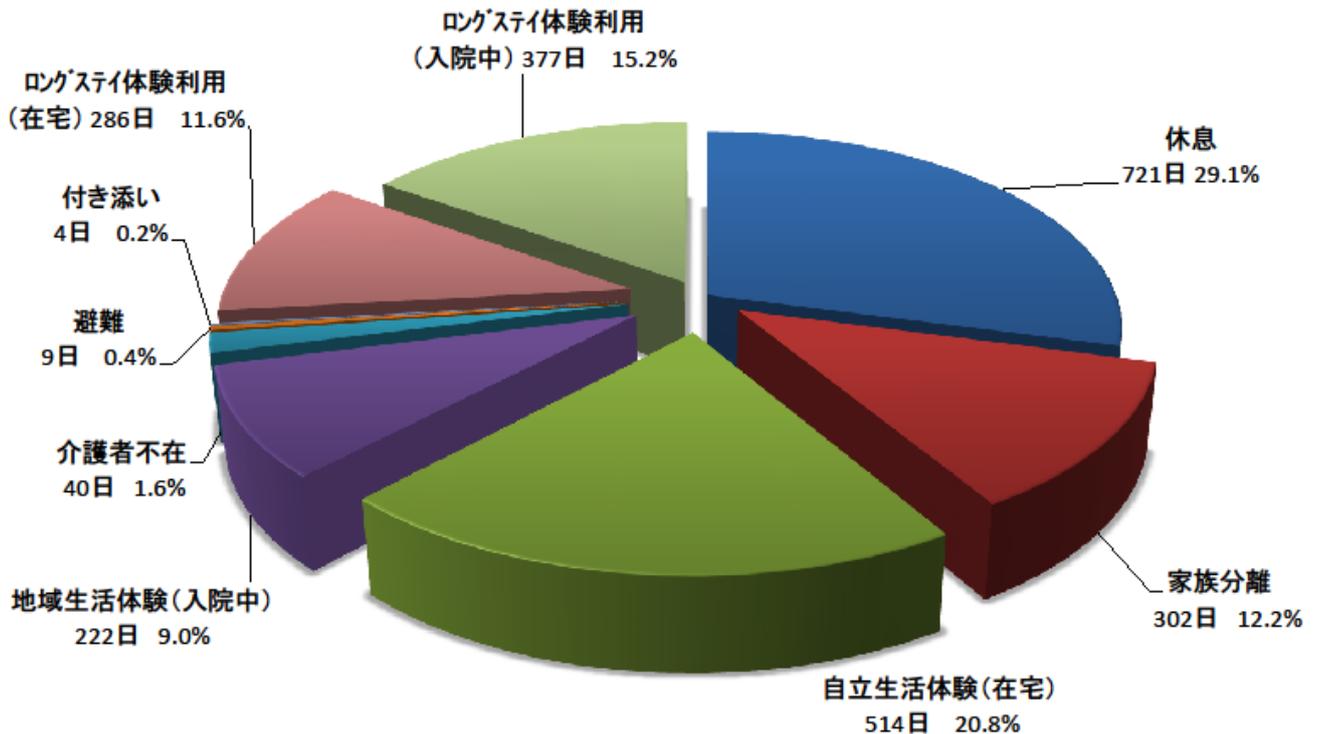
短期利用は利用者のライフイベントなどに応じて利用される場合が多く、適宜相談に応じるなど地域生活の継続を支援しました。ご利用いただいた日数は延べ 2,475 日でした。（表 3、図 4）

（表 3 平成 23 年度短期利用（ショートステイ）利用状況）

	短期入所	横浜市精神障害者 地域生活推進事業		男性	女性
利用件数	181 件	49 件	最低年齢	21 歳	18 歳
延利用者数	1,853 人	600 人	最高年齢	70 歳	66 歳
平均障害程度区分	2.21		平均年齢	43.08 歳	43.12 歳

（図 4 ショートステイ利用目的）

延べ日数 2,475 日



ウ 地域移行（退院促進支援）に関する普及啓発事業

市内の精神科病院や福祉保健センターなどを会場として当センターの事業や様々な社会資源について身近で具体的に紹介する巡業活動を行っています。紙芝居やビデオ等視覚的に伝わりやすい方法を取り入れながら、当事者に語りかけています。特に実際に退院し生活をしている方からの話には関心の高さが伺えます。（表 4、表 5）

(表 4 医療機関への啓発活動)

日時	対象者	内容	場所	当事者	関係機関職員
6/28	鶴見西井病院 女性病棟入院中の方	住居	鶴見西井病院	25人	5人
11/8	常盤台病院 入院中の方	生活訓練(ハイツかもめ)の利用	総合保健医療センター	11人	4人
12/13	港北病院 入院中の方	生活訓練(ハイツかもめ)の利用	総合保健医療センター	11人	4人
1/27	新横浜こころのホスピタル 病棟、外来、デイケアの方	社会資源の紹介	新横浜こころの ホスピタル	34人	10人
2/28	紫雲会横浜病院 入院中の方	社会資源の紹介	紫雲会横浜病院	49人	31人
合計				130人	54人

(表 5 医療機関以外への啓発活動)

日時	対象者	内容	場所	当事者	関係機関職員
12/22	泉区生活支援センター 利用者	生活訓練(ハイツかもめ)の利用	泉区生活支援センター	7人	4人
1/24	NPO法人 コスモスの会	自立〜できることから始めよう	フォーラム南太田	34人	11人
2/20	中区 家族会	どうしたら一人暮らしできるの	中区予防接種センター	17人	1人
3/21	石川町クリニック 家族会	生活訓練(ハイツかもめ)の利用	総合保健医療センター	19人	1人
合計				77人	17人

エ 生活実践型ハンドブックの販売

精神の障害を持っていても地域で自立して生活して暮らし続けることは可能です。日常の中で生じる些細な不安に対応できれば地域での生活の定着率は向上します。

そこで、「図解ひとり暮らしのコツ集めてみました～生活実践型ハンドブック～」を平成 20 年 6 月に作成しました。暮らしにおける様々なことについてわかりやすい情報提供を心がけて作成いたしました。販売開始以来、好評をいただき多くの方にご活用いただいております。

(表 6 ひとり暮らしのコツ集めてみました販売状況)

	平成 23 年度分	累計冊数
電話、ファクス、Eメールによる通信販売	259 冊	994 冊
生活訓練窓口や生活支援センター等での販売	37 冊	683 冊
関係機関等への配布	13 冊	679 冊
合計	309 冊	2,356 冊

(3) 就労訓練

障害者自立支援法による就労移行支援事業（6か月訓練コース）と、法外事業である1か月評価コースのふたつの利用形態を設け、これから就労を目指す方々に訓練と評価の場を提供しています。

ア 6か月訓練コース（就労移行支援事業所 定員24人）

働く上で必要となる基本的な生活態度を形成しながら、職業生活の体験を通して就労準備性の向上を図ることを目的としたコースです。職業生活に必要な諸技能を高めるだけでなく、企業内訓練や職場体験実習により、働くことに対する関心、意欲を醸成することも支援のねらいとしています。さらに、就労への移行にあたっては利用者一人ひとりの希望を重視しながら求職活動支援、職場定着支援を行います。

平成23年度 6か月訓練コース 利用者の状況

新規利用者(46人)	実利用者(73人)	利用終了者(44人)
デイケア利用 11人	新規利用 46人 前年度より継続利用 27人 (延利用者数 4,773人)	就労11人
地域活動支援センター・ 地域作業所等利用 1人		復職1人
無職・通所施設なし 33人		他の通所施設へ移行8人
その他 1人		体験利用で終了10人
		その他 14人

※本表は、平成23年度内における登録・利用・終結状況をそれぞれ示したものです。従って、利用者及び終了者は23年度中の新規利用者とは限りません。

<利用状況>

実利用者数 73人	男性 56人 女性 17人	延利用者数 4,773人
開所日数 240日	1日平均利用者数 19.9人	

イ 短期評価コース

1か月の短期通所訓練を通して、就労を希望する精神障害者の就労準備性、職業上の課題、作業特性等について評価を行うことを主眼とした法外の事業です。訓練を通して利用者ご本人、関係する機関の方とともに、就労実現への手立てを考えていきます。最近では就労準備訓練の体験、復職の前段階での生活リズム調整を目的とした利用も増えています。

<利用状況>

実利用者数	42人	男性	27人	女性	15人	延利用者数	582人
開所日数	240日	1日平均利用者数	2.4人				

ウ その他のプログラム実施状況

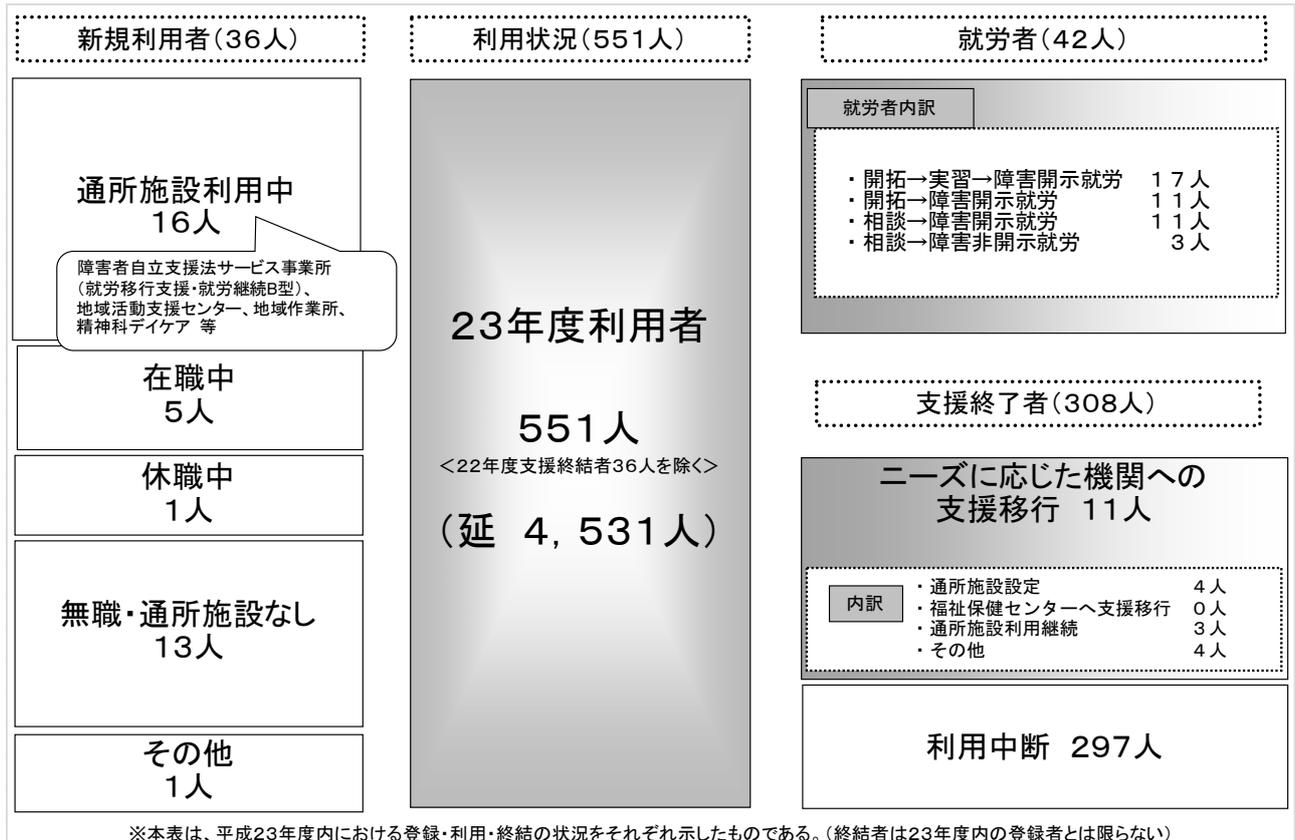
活動名	実施回数	延利用者数	テーマ・内容
就労セミナー	22回	381人	対人コミュニケーション、生活リズム・病気との付き合い方自分に合った仕事の見つけ方 等
就労SST	20回	96人	職場での基本的な対人対処についてロールプレイを通して学ぶ
職場見学会	9回	57人	職業の実際場面の見学
家族会	6回	54人	訓練・支援内容について、家庭での関わり方、就労前後の支援 等
合計	57回	588人	

精神障害のある方の就労を支援する上で、作業場面だけでその方の状況を理解することはできません。お一人おひとりの生活環境や物事に対する関心、意欲の度合いが作業への取組みに少なからず影響しているからです。利用者のアセスメントにあたっては、作業状況だけでなく生活の様子、職業に対する関心など多面的な理解に努め、個々の状況に合わせた計画により支援を進めています。

就労訓練係は開所以来、一貫して就労支援に重点をおいた事業を進めてきました。特に近年では、施設の中での訓練を初期の段階にとどめ、企業環境下での体験実習に支援の柱を移しています。これは職業準備性を高め仕事に対する責任感や意欲の醸成を図る上で、実際の経済活動の中に身をおきながら働く経験を積むことが不可欠と考えるからです。このような視点から、平成23年度はあわせて565回の職場実習を行いました。事業開始20年を迎えるのを機に、訓練内容の見直しに取り組み、より効果的な支援方法の開発に努めてまいります。

(4) 精神障害者就労支援センター「ぱーとなー」

平成23年度の相談件数は、4,531件で、前年を大幅に下回る件数となっていますが、これは相談件数の把握について、軽微な報告等は除外することにしたためです。就労者数は42人で、前年と同数でした。また、離職者数も27人で、全く偶然ですが、前年と同数でした。この結果、本年度も就労中の方が15人増となりました。就労者が増加することは喜ばしいことですが、就労継続支援に関わるスタッフの業務量が漸増しており、関係機関との連携強化などがより必要になってきていると感じております。また、平成24年度より、利用者の方と毎年利用確認を行うようにすることにしました。それに先立ち、利用者の方の利用状況を精査し、2年以上利用実績のない方は、一旦利用中断といたしました。そのため、今年度は利用中断者が多くなっています。



ア 相談及び調整

就労に関する相談に対応し、本人の能力や適性・希望により、支援計画を策定しました。また、他の就労支援機関との連携による情報の提供総合相談窓口として、施設・機関の紹介を行いました。

(件)

	新規相談			継続相談			合計		
	電話	来所	合計	電話	来所	合計	電話	来所	合計
計	380	154	534	2,899	1,098	3,997	3,279	1,252	4,531
1日平均	1.56	0.63	2.19	11.88	4.50	16.38	13.44	5.13	18.57

イ 当事者支援

(ア) 短期就労準備訓練、就労移行型実習、就労継続支援

協力企業や関係機関に委託して訓練を実施するとともに、ジョブコーチを派遣して企業と障害者の橋渡しを行い、双方の不安や課題等を解決するための支援を行いました。また、就労後の職場定着のため、ジョブコーチの派遣を行いました。

(件)

同行	準備訓練関係	移行型実習関係	求職関係	その他	計
	18	9	39	40	106
同伴作業	準備訓練中	移行型実習中	就労後		計
	45	28	12		85
訪問	準備訓練中	移行型実習中	就労後	その他	計
	17	25	164	20	226

(イ) 就労者の会

就労者相互の親睦を深めるとともに、就労継続支援の一環として実施しました。

	実施日	場所	内容	参加人数
1	9/30(金)	横浜市総合保健医療センター	自己紹介・近況報告等	利用者 46 人/職員 7 人
2	3/4(金)	横浜市総合保健医療センター	(食事をしながら懇親)	利用者 30 人/職員 5 人

ウ 雇用先企業の開拓 (件)

電話	訪問
312	50

エ 事業所支援

企業等に対し、障害者雇用についての相談・支援を行いました。(件)

新規雇用相談	未登録在職者相談	登録在職者相談	合計
27	51	191	269

オ 関係機関支援

(ア) 個別就労相談・就労講座

関係機関が開催する個別就労相談・就労講座に職員を派遣しました。(回)

就労相談		就労講座	
神奈川区生活支援センター	5	青葉区生活支援センター	1
ほっとサロン青葉	10		

(イ) 講師派遣

	実施日	派遣先	内容
1	7/4、25 8/1、19	「トライ！」初級パソコン科 有限会社 Sein (ザイン)	就職を目指す上で必要なこと (講義、ロールプレイ等)
2	7/28、11/17	職業能力開発大学校講師	精神障害者の就労支援講義
3	11/15	ハローワーク ジョブガイダンス	就労を目指す人を対象とした研修会
4	11/20、2/26	戸塚就労者ミーティングアドバイザー	就労中の当事者によるグループワーク

(ウ) 職員派遣

障害者就労支援センター連絡会
神奈川地域就労援助・支援センター連絡協議会
北部就労促進ネットワーク会議
神奈川県精神障害者就労援助機関連絡会
市精連研修事業部・スタッフ会議
磯子区生活支援センター就労者の会

就労支援実績				
平成23年度 就労者の状況				
<就労者 42人 内訳>				
就労者No.	採用年月日	就労者の職務	勤務シフト/勤務時間	就労までの経過
1	2011/4/	障害者支援員	週3日/8:30~16:30	相談→開示就労
2	2011/4/	食器等洗浄作業	週4日/9:30~14:00	開拓→実習→開示就労
3	2011/4/	カート・かごの整理	週4日/10:00~14:00	開拓→実習→開示就労
4	2011/4/	食器等洗浄作業	週4日/5:00~10:30	相談→非開示就労
5	2011/4/	販売店でのカウンター業務と清掃	週4日/9:45~15:45(試用期間中は日数不定期)	開拓→開示就労
6	2011/5/	倉庫内作業	週5日/8:30~17:00	開拓→開示就労
7	2011/5/	倉庫内作業(返却保冷剤の片づけ)	週4日/16:00~20:00	開拓→開示就労
8	2011/6/	調理補助	週4日/10:00~15:00	相談→開示就労
9	2011/6/	事務	週5日/9:00~18:00	相談→非開示就労
10	2011/6/	店舗の外周清掃	週5日/10:00~17:00	開拓→実習→開示就労
11	2011/7/	書類整理・電話対応・PC入力	週5日/9:00~16:30	相談→非開示就労
12	2011/7/	事務系軽作業(内部監査業務等)	週5日/9:00~17:20	開拓→実習→開示就労
13	2011/7/	貿易事務補助	週5日/10:00~16:00	相談→開示就労
14	2011/7/	調理補助	週3日/11:30~14:30	相談→開示就労
15	2011/7/	調理	週3日/15:30~19:30	開拓→実習→開示就労
16	2011/8/	保育補助	週2日/16:00~18:30	開拓→開示就労
17	2011/8/	冷蔵ショーケースの洗浄	週3日/10:00~16:00	開拓→実習→開示就労
18	2011/9/	カート・かごの整理	週3日/シフト制	開拓→実習→開示就労
19	2011/9/	梱包、発送	週4日/13:00~17:0 月のみ13:00~18:00	開拓→実習→開示就労
20	2011/10/	軽作業(野球のボールの加工)	週5日/10:00~15:00	相談→開示就労
21	2011/10/	接客・販売	週5日/10~20:00間のシフト制	相談→開示就労
22	2011/10/	清掃業務	週3日/シフト制	開拓→実習→開示就労
23	2011/11/	事務補助	週5日/9:00~12:00	開拓→実習→開示就労
24	2011/11/	仕分け作業	週4日/13:00~17:00(シフト制)	開拓→開示就労
25	2011/11/	データ入力	週3, 4日/10:00~17:00	開拓→実習→開示就労
26	2011/11/	事務職	週3, 4日/10:00~17:00	相談→非開示就労
27	2011/12/	販売促進事務	週5日/10:00~17:00	開拓→開示就労
28	2011/12/	軽作業	週5日/10:00~15:00	相談→開示就労
29	2011/12/	伝票仕分け、書類整理等	週5日/9:00~17:30	相談→開示就労
30	2011/12/	洗濯業務	週5日/9:00~13:00	開拓→実習→開示就労
31	2012/1/	軽作業(野球のボールの加工)	週5日/10:00~15:00	相談→開示就労
32	2012/1/	店内清掃	週2日/9:00~11:00	開拓→実習→開示就労
33	2012/2/	調理補助	週5日/9:00~16:00・13:00~20:00	開拓→開示就労
34	2012/2/	ピッキング	週3日/10:00~17:00	相談→開示就労
35	2012/2/	軽作業(野球ボールの加工)	週5日/10:00~15:00	相談→自己就労
36	2012/2/	清掃業務		相談→自己就労
37	2012/3/	清拭作業	週5日/9:00~17:00	開拓→実習→開示就労
38	2012/3/	帳票ピッキング、データ入力	週5日/9:00~17:00	相談→非開示就労
39	2012/3/	コンテナ洗浄	週3日/9:00~14:30	開拓→実習→開示就労
40	2012/3/	軽作業(野球のボールの加工)	週5日/10:00~15:00	相談→開示就労
41	2012/3/	軽作業(野球のボールの加工)	週5日/10:00~15:00	相談→開示就労
42	2012/3/	伝票の仕分け作業	週5日/10:00~14:00	相談→開示就労

(5) 横浜市港北区精神障害者生活支援センター

港北区生活支援センターは、平成 21 年 6 月から業務を開始しました。同時に相談支援事業所の指定を受け、幅広く相談支援を行うとともに、生活支援の一環として食事、入浴サービス等を実施しました。

くつろぎの場としての環境整備や出会いの場・仲間づくりとしてイベント等を行い、地域の各機関と連携を取りながら、地域で暮らす精神障害者の生活支援、自立に向けての支援を実施しました。また、平成 23 年度から新たに地域移行・地域定着支援事業（旧名称～退院促進事業）を開始するとともに、これまで生活訓練係で行っていた自立生活アシスタント事業を引き継ぎ、生活支援センターで実施しました。

- ア 開設場所 横浜市港北区鳥山町 1 7 3 5 横浜市総合保健医療センター 4 階
 イ 利用時間 午前 9 時から午後 9 時まで
 毎月第一水曜日休館（第一水曜日が祝日と重なる場合は、翌日休館）

ウ 利用状況及び支援内容

(ア) 利用者数内訳 (人) (日)

全体	内訳						開所日数
	本人(男性)	本人(女性)	家族	ボランティア等	電話	訪問同行	
28,834	7,704	2,982	94	475	17,507	72	354

(イ) 相談支援 (人)

合計	電話		面接		訪問・同行		面接(非構造)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
23,121	10,172	7,335	1,516	546	47	25	2,940	540
1日平均	49.5		5.8		0.2		9.8	

(人)

嘱託医相談(精神科・内科)				
実施回数	合計	男性	女性	家族等
35回	41	20	20	1

(ウ) 生活支援 (人)

食事サービス			入浴サービス			洗濯サービス		
合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
4,888	3,121	1,767	369	277	92	156	125	31
1日平均	13.8		1日平均	1.0		1日平均	0.4	

(人)

インターネットサービス		
合計	男性	女性
675	539	136
1日平均	1.9	

(エ) 利用登録内訳

利用登録の有無にかかわらずセンターは利用できますが、有料サービスを利用する場合には登録が必要です。

男女別・年齢別

(人)

(歳)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	不明	合計	最高	最低	平均
男性	1	52	150	156	77	35	3	474	78	18	48.0
女性	5	45	113	79	36	18	2	298	82	19	50.5
合計	6	97	263	235	113	53	5	772	82	18	50.0

区別内訳

(人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
60	64	9	33	36	25	36	33	15	15
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外	合計
243	47	27	32	19	10	12	14	42	772

エ 自主企画事業

スタッフが企画をし、目的を持って運営しているプログラムや、利用者ミーティングなどの意見を反映し、利用者、ボランティアと一緒に行事等を実施しています。

名称		回数	参加人数
プログラム・行事	利用者ミーティング	12	125
	プログラムミーティング	6	57
	復職フォローアップ	12	85
	昼食会（買い出し等準備含む）	5	82
	花見	1	8
	2周年記念夕食会	1	26
	納涼会（買い出し等準備含む）	1	106
	クリスマス会（準備含む）	2	30
	新年会（ボランティアとの打ち合わせ含む）	2	42
	文化祭（買い出し・打ち合わせ等準備含む）	9	159
他	区共催精神保健福祉講座	1	30
	精神保健福祉研修会（打ち合わせ含む）	3	39
	運営連絡会	2	45
	合計	57	834

オ 場の提供

日常生活支援の1つに仲間づくり等の機会や場の提供があります。

サークル活動は、利用者自らが企画、運営し、スタッフが側面から支援しています。利用者同士の趣味や語りを通じた交流の場として機能しています。

名称	回数	人数
サークル A	96	960
サークル B	29	271
サークル C	17	69
サークル D	3	4
合計	145	1304

カ 地域交流

地域の関係機関、関係団体等と連携をしながら、地域に開かれたセンターづくりを進めています。

名称	回数	人数
港北区精神保健サロン（はあとサロン、かもみいる等）	3	5
家族会（港北区白梅会）新年会等参加、浜家連話し合い	3	3
ボランティアグループ等との話し合い・打ち合わせ	6	26
コンサート実行委員会（当事者グループ）	5	29
区内作業所・ケアプラザ等訪問	3	5
講師派遣（高田地域や城郷小机地域ケアプラザ・ボランティア団体等）	3	5
りんでんーカフェ杜作業所開所式参加	1	1
鶴見区生活支援センター開所式参加	1	1
精ボ連通信取材	1	4
高次脳機能障害者支援センター意見交換	2	10
合計	28	89

キ 地域会議等

区の自立支援協議会を始め、地域の会議に参加し、課題の把握や情報の共有化等を行います。

名称	回数	人数
港北区自立支援協議会（個別支援会議・全体会・代表者会）	11	24
港北区精神保健福祉連絡会・北部MSW業務検討会等	2	4
横浜市生活支援センター連絡会（定例会、その他）	12	15
その他（こころの電話相談連絡会・二次相談担当者会議等）	3	4
合計	28	47

ク 地域支援事業（ほっとタイム事業）

平成 23 年度より

- (ア) 家族と当事者が一緒になって、ゆっくり語り合える場を提供する
- (イ) 生活支援センターまで来られない人たちの居場所づくり
- (ウ) 生活支援センターの利用につながっていない当事者・家族の把握、支援を実施しています。

	5月14日	7月9日	9月10日	12月10日	2月4日
参加者数	14人	14人	14人	16人	16人

「カフェ杜」にて、5回開催しました。

ケ 復職サポートプログラムフォローアップ事業

平成 22 年度から、総合保健医療センター精神科デイケアの「復職サポートプログラム」の修了者を対象として、生活面のフォローアップを行う事業を毎月 1 回実施しています。全 12 回、48 人の参加がありました。

コ 発達障害者支援モデル事業

平成 23 年度から、健康福祉局障害企画課、横浜市発達障害者支援センター、港北区高齢・障害支援課と共に、本事業を開始しました。平成 23 年度は、関係機関職員向けに以下のセミナーを開催しました。

日時・場所	内容	参加者数
平成 24 年 3 月 3 日（土） 横浜市総合保健医療センター講堂	①講演 「医療機関との連携を育てていくために」 「発達障害者の相談支援体制」 「福祉サービスの仕組み」 ②グループワーク	27 人

サ 地域移行・地域定着支援事業

《個別支援実施報告》

支援対象者に、延べ 5 2 5 回の支援を行いました。

支援対象者数	病名	帰結	退院後の帰来先
3 人	統合失調症 3 人	支援継続 3 人	支援継続中

《普及啓発活動実施報告》

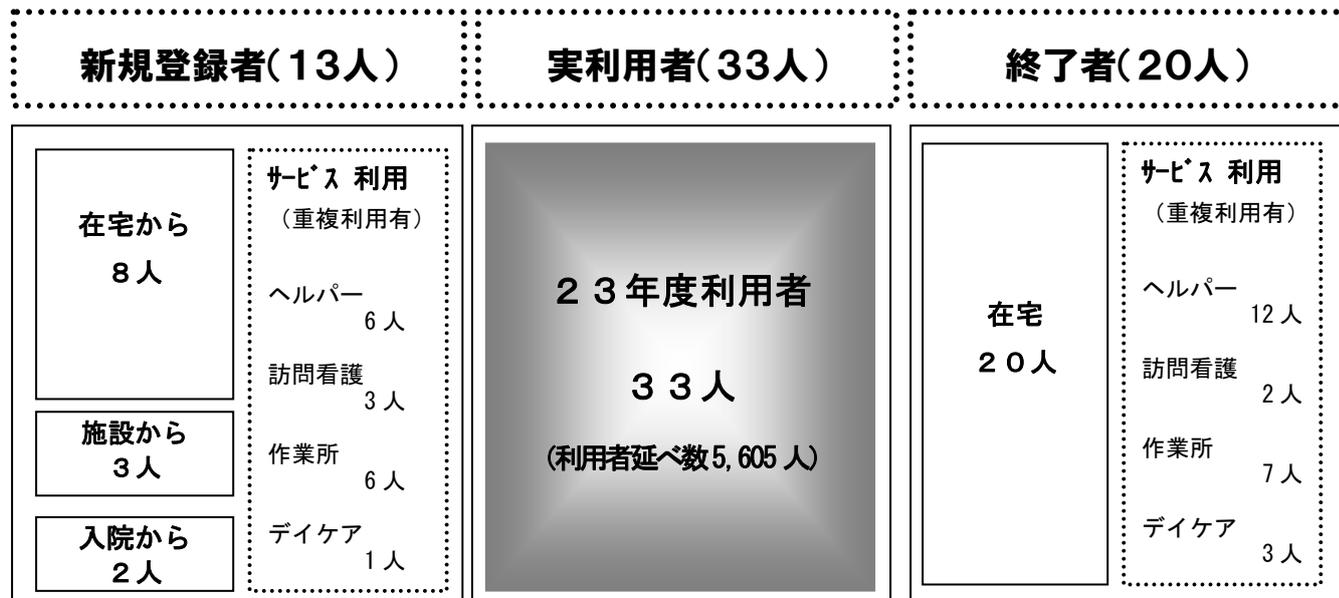
普及啓発活動については、北部ブロックとして緑区生活支援センターと共に企画・実施を行ってきました。平成 23 年度は本事業と生活訓練（ハイツかもめ）との協働で、入院患者様向けに社会資源の紹介を目的とした活動を行いました。

場所	参加者数	参加関係機関種別
新横浜こころの ホスピタル	34 人	病院、生活支援センター、生活訓練、グループホーム 区福祉保健センター、地域活動支援センター（作業所型）

シ 横浜市障害者自立生活アシスタント事業

平成23年度より、生活訓練への委託事業から港北区生活支援センターの付随事業となりました。施設の専門性を活かし、利用者の障害特性を踏まえた社会適応力・生活力を高めるためのマンツーマン支援を展開します。生活の安定や将来に向けたステップアップのための様々な個別の課題への取り組みをサポート、また関係機関との連携作りを行います。ニーズを明確にし、強みを活かした自分らしい生活を送れるよう支援します。

平成23年度 自立生活アシスタント 利用者の状況



本表は23年度中における登録、利用、終了の状況をそれぞれ示したものである。したがって利用者及び終了者は23年度中の登録者とは限らない。

23年度利用者の状況、支援方法・内容

<世代別・男女別>

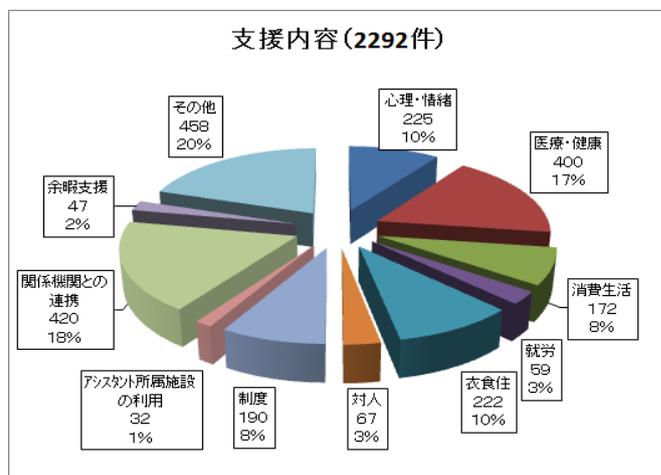
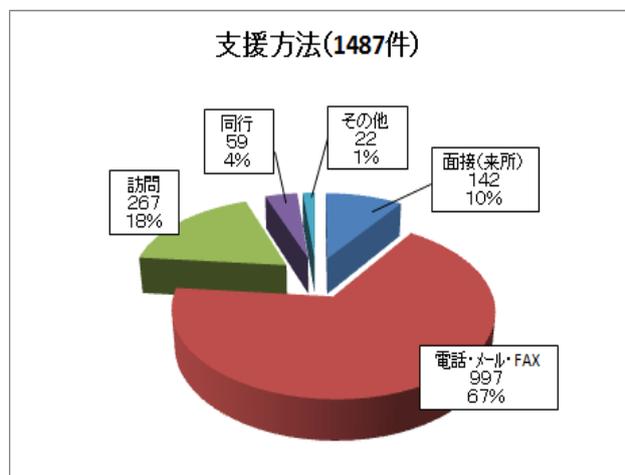
	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	0	2	9	1	1	13
女性	1	6	6	3	4	20
	1	8	15	4	5	33

<利用目的>

①自立生活(②以外)	②自立生活(同居家族の高齢化・死亡)	③退所後の生活安定	④退院後の生活安定	⑤その他	合計
15	4	8	3	3	33

<世帯状況>

家族同居	単身	合計
6	27	33



2 要介護高齢者支援事業

我が国は本格的な高齢社会に移行し、認知症を含む要介護高齢者も着実に増加し、その支援はますます重要となってきました。

センター開設時、市内に3か所であった介護老人保健施設は、介護保険の創設により現在80か所になり高齢者の安心は大きく前進しました。しかし、施設の急速な整備と介護報酬の制約等から専門職員の定着が進まないこと、入所者の医療費は原則として介護報酬に包括されることなどから、医療ニーズを伴う要介護者の利用が抑制されること等の問題も生じています。

センターでは、こうした課題に「しらさぎ苑」と「診療所病床」を有機的に連携させることで、介護度と医療ニーズが高いため他の介護老人保健施設では受け入れの難しい方に対応するなど、各部門が連携して取り組んでいます。しらさぎ苑は、全国老人保健施設協会実地研修指定施設でもあり、特色ある運営で要介護高齢者・家族にきめ細かく対応をしています。

平成23年度も、財団の基本理念『「個の尊重」「安心と信頼」を大切に質の高いサービス提供を目指します』を踏まえ、以下の運営方針により要介護高齢者支援事業に取り組みました。

1 個の尊重と安全で適切なケア

利用者一人ひとりの生活と人生を尊重する姿勢をケアの基本とし、利用者のニーズ、心身の状態に合わせた安全で適切なケア提供に努めます。特に、認知症利用者については、専門医のコンサルテーションや職員のキャリアなどを活用して、適切なケアを提供します。

2 利用者ニーズに即したサービスの提供

業務改善サイクルを活用して、利用者満足度の向上と質の高い療養・介護環境の実現を図ります。また、短期入所や医療処置が必要な利用者等を積極的に受入れ、ニーズに即したサービスを提供します。さらに、評価システムを機能させ、評価・情報公表を積極的に行い、サービスの質の向上に努めます。

3 ふれあい・であいの開かれた施設運営

開かれた施設運営を図り、高齢者の在宅生活を支援するため、地域の人々や自治体・関係諸機関等と協働し、地域ネットワークの構築を目指します。

4 サービスを支える人材の育成

人が人に対して行うサービスは、職員のケアの実践力が鍵となります。要介護高齢者支援サービスの担い手として、確かな知識と技術を基盤にした専門性の高い実践力向上を目指します。

また、サービスの質向上のため、専門的・人間的能力の高い実践モデルの育成を図ります。

人材育成に向けては、職員が主体的に自らの実践力向上に取り組めるよう、成長段階ごとの到着目標を設け、継続的に教育・研修を実施します。

5 健全で安定した経営基盤の確立

市民・利用者の期待や信頼に応える施設として、効率的・効果的な運営に努め、健全で安定的な経営基盤を確立します。そのため、経営目標を組織で共有し、施設稼働率の向上やコスト節減などの実現を図ります。共通の目標に向かって取り組む過程を通して、職員が一体となってセンター運営に取り組む意欲を高めます。

(1) 介護老人保健施設（しらさぎ苑）

【一般棟50床 認知症専門棟30床 通所リハビリテーション（含介護予防）、定員20人】
 介護保険制度に基づき、要介護認定された高齢者の方々に「施設サービス」・「短期入所」・「デイケア」の介護サービスを提供しています。ニーズの高い短期入所の割合が高いことが特色です。
 なお、一般棟及び認知症専門棟を合わせた入所稼働率は、98.1%を達成しました。

◆ 利用者数及び男女別内訳 (人)

区 分		延利用者数	実 利 用 者 数			
			男 性	女 性	合 計	
入 所	一 般 棟	施設サービス	15,610	14	77	91
		短 期 入 所	2,173	48	173	221
	認 知 症 棟	施設サービス	9,649	12	51	63
		短 期 入 所	1,299	50	78	128
施設サービス計(再掲)		25,259	26	128	154	
短 期 入 所 計 (再掲)		3,472	98	251	349	
入 所 計		28,731	124	379	503	
通 所		4,910	41	37	78	
合 計		33,641	165	416	581	

* 入所における延利用者数の短期入所の割合は12.1%となっています。

ア 入 所

(ア) 入所者の年齢別内訳 (人)

	～ 64歳	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	合 計
一 般 棟	14	36	13	35	53	83	67	11	312
認 知 症 棟	0	17	10	7	51	54	41	11	191
合 計	14	53	23	42	104	137	108	22	503

(イ) 入所者の平均入所日数 (日)

区 分		日 数
一 般 棟	施設サービス	425
	短期入所	10.2
認 知 症 棟	施設サービス	355.8
	短期入所	10.4

(ウ) 入所者の区別内訳 (人)

	鶴 見	神 奈 川	西	中	南	港 南	保 土 ヶ 谷	旭	磯 子
一 般 棟	69	81	6	2	6	2	4	1	0
認 知 症 棟	45	62	2	1	5	0	8	0	1
合 計	114	143	8	3	11	2	12	1	1

金 沢	港 北	緑	青 葉	都 筑	戸 塚	栄	泉	瀬 谷	市 外	合 計
0	124	4	2	4	0	1	0	1	5	312
0	49	3	0	7	0	0	0	0	8	191
0	173	7	2	11	0	1	0	1	13	503

(エ) 入所者の要介護度別内訳

(人)

	施設サービス	短期入所	合計
要支援1・2	—	0	0
要介護1	9	17	26
要介護2	28	39	67
要介護3	39	103	142
要介護4	35	75	110
要介護5	43	115	158
合計	154	349	503
平均介護度	3.5		

(オ) 感染症の方の受入 (重複あり)

(人)

感染症名	人数
MRSA	2
緑膿菌	1
HBV	3
HCV	14
梅毒	0
合計	20

(カ) 施設サービス退所者の状況

	退所後の行き先内訳			
	自宅	老健施設	病院	合計
人数	28人	23人	33人	84人
退所先の割合	33.3%	27.4%	39.3%	100%

イ 通所リハビリテーション・介護予防通所リハビリテーション

(ア) 年齢別内訳

(人)

年 齢	～64歳	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	合 計
利用者数	0	9	14	11	12	15	17	0	78

(イ) 区別内訳

(人)

	港 北	神奈川	都 筑	市外	合 計
利用者数	62	14	1	1	78

(2) 診療所病床 【医療病床 7床 介護療養病床 12床】

医療法の病床のうち、7床で医療対応が必要な高齢者等のショートステイを中心に対応するとともに、12床で要介護高齢者の受け入れを行い、介護ニーズと医療ニーズを併せ持つ中重度者に対応しました。

介護老人保健施設と連携してサービスの質向上に取り組むとともに、入所稼働率は101%を達成しました。

ア 医療病床（7床） 延2,874人

介護保険の適用とならない、在宅の寝たきりの方や医療対応が必要な寝たきり高齢者等の方のショートステイを中心に入所を行いました。

(ア) 男女別・年齢別内訳

(人)

	～39歳	40～49	50～59	60～64	65～69	70～79	80～89	90～	合 計
男 性	0	3	3	0	22	29	25	6	88
女 性	0	0	0	1	6	56	36	38	137
合 計	0	3	3	1	28	85	61	44	225

(イ) 男女別・利用期間別内訳

(人)

	1～5日	6～10日	11～15日	16～30日	31日～	合 計
男 性	12	27	28	13	8	88
女 性	16	73	19	22	7	137
合 計	28	100	47	35	15	225

(エ) 要介護度別内訳

(人)

	施設サービス	短期入所	合計
要支援1・2	－	0	0
要介護1	0	0	0
要介護2	0	0	0
要介護3	0	0	0
要介護4	4	0	4
要介護5	28	0	28
合計	32	0	32
平均介護度	4.88		

(オ) 主な疾患別内訳 (重複あり)

(人)

脳血管疾患	神経疾患	精神疾患	呼吸器疾患
10	5	1	1
糖尿病	筋・骨格疾患	心疾患	その他
2	2	5	10

ウ 感染症の方の受入 (重複あり)

(人)

感染症名	人数
MRSA	3
緑膿菌	3
HBV	0
HCV	5
梅毒	4
計	15

エ 歯科診療

当センター老健入所者等を中心に、口腔ケアを目的に歯科診療を実施しました。

月別延利用人数

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人	31	23	31	19	18	24	31	31	31	34	26	20	319

3 地域医療機関支援事業

要介護者、精神障害者の在宅支援のうえで、かかりつけ医等の地域医療機関の果たす役割は大変重要です。大病院指向から、病診連携による機能分担への流れを踏まえ、センターではこれまで地域医療機関に対し、高額医療機器の共同利用等による支援を行ってまいりました。

今年度も地域医療機関のニーズを踏まえ、適切な支援事業を推進いたしました。

(1) 高額医療検査機器の共同利用

地域医療機関にはスペースや採算性により設置困難なMRI（磁気共鳴イメージング装置）やCT（コンピュータ断層撮影装置）等の画像診断機器や、トレッドミルや心臓超音波装置、内視鏡装置を整備し、地域医療機関の依頼に応じて、検査、診断を実施いたしました。

ア 医療検査機器の共同利用

市内の医療機関を対象に、MRI、CT、RI等の医療検査機器の共同利用を行いました。

検査項目		共同利用 (人)	所内検査 (人)	合計 (人)
放射線検査	CT	989	279	1,268
	MRI	1,342	1,075	2,417
	RI	65	98	163
	X線撮影	25	1,280	1,305
	小計	2,421	2,732	5,153
生理検査	内視鏡	103	20	123
	腹部超音波	-	38	38
	頸動脈超音波	-	83	83
	心臓超音波	131	64	195
	脳波	111	859	970
	運動負荷心電図	42	26	68
	ホルター心電図	10	17	27
	小計	397	1,107	1,504
合計		2,818	3,839	6,657

(2) 認知症診断及び外来

認知症の診断・外来治療については、市民の関心の高まりにより受診希望者が年々増加しています。センターではこれに対応すべく業務の効率化をはかり、新患受付人数を増やし対応いたしました。

今後も新患の増加に伴う再来患者の増加への対応も含め、認知症に関する当センターの評価を確たるものにするよう取り組んでまいります。

ア 認知症診断

認知症が疑われる方を対象に精神科医による診察やMRI、脳波等の精密検査による認知症の診断を行い、医学的な面から在宅生活を支援しました。

(ア) 男女別・年齢別内訳

(人)

	～59歳	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合計
男性	6	9	8	52	67	83	45	17	287
女性	9	9	20	64	116	168	103	39	528
合計	15	18	28	116	183	251	148	56	815

(イ) 疾患別内訳

(人)

疾患名	アルツハイマー病 (晩発性)	混合型 認知症	アルツハイマー病 (早発性)	脳血管性 認知症	その他	認知症なし	合計
人数	447	79	18	13	255	3	815

※アルツハイマー病(晩発性)は65歳以上、(早発性)は65歳未満で発症したものの。

(ウ) 区別内訳

(人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
46	102	4	13	12	44	52	22	20	1
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外	合計
233	87	14	38	21	9	32	5	60	815

(エ) 紹介機関等の内訳

(人)

紹介機関	医療機関	福祉保健 センター	地域ケア 施設	直接申込		合計
				本人	家族	
人数	4	14	24	3	770	815

イ 認知症外来

認知症診断を受診後、引き続き外来診療を希望する方を対象に、認知症外来を実施しました。前年度に比較して、延べ患者数が1.5倍に増加しました。これは、平成23年に発売された認知症の新しい治療薬の処方間隔が、1回14日分までとされ、患者の受診間隔が、従来より短くなったことによるものです。

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	225	178	245	273	321	338	348	365	362	293	372	384	3,704

(3) 生活習慣病外来等

横浜市では、健康寿命の延伸をテーマに「健康横浜21」運動を展開し、死因の6割を占める、がん・脳血管疾患・心疾患の三大生活習慣病対策等に取り組んでいます。

また、最近では、内臓脂肪型肥満に加えて血糖値、血圧、血清脂質のうち2つ以上が危険域にあるメタボリックシンドロームも、動脈硬化を年齢相応より早く進行させるものとして問題となっています。喫煙に伴う「肺の生活習慣病」である慢性呼吸器病疾患（COPD）ともあわせ21世紀の生活習慣病の概念は非常に広義になっています。当センターにおいても高齢者を側面から支援するため、啓発活動とともに原因治療に重点をおいた生活習慣病外来を実施しております。

また、平成20年4月から糖尿病等の生活習慣病の予防及び進行の防止、生涯にわたる健康の保持を図ることを目的に、高齢者の医療の確保に関する法律が施行され、当センターにおいても特定健康診査を実施しました。

ア 生活習慣病外来 月別利用人数

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	348	323	339	316	325	352	386	380	387	402	386	343	4,287

イ 健康診査他

(人)

健康診査		年間受診者数
特定健康診査		123
	横浜市国民健康保険	107
	社会保険他	16
横浜市健康診査他		14
	横浜市健康診査	6
	P S A検査	8
	生活機能評価	0

ウ 精神科初期救急

神奈川県精神保健福祉センター内に設置されている、精神科救急医療情報窓口で電話相談し、窓口で外来受診が必要と判断された方に土曜日の午後(13:00~17:00)、日曜・祝日・年末年始の午前午後(9:00~17:00)に診療を行いました。

(ア) 開所日数

開所日数	121日
------	------

(イ) 受入人数

受入人数	84人	1日平均	0.7人
------	-----	------	------

(ロ) 曜日別内訳 (人)

土曜	日曜	祝日	合計
19	31	34	84

(ハ) 診察内容内訳 (重複あり) (人)

診察	処方	注射	紹介状	入院
84	78	10	15	1

(ニ) 男女別・年齢別内訳 (人)

10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~(歳)	計
4	26	25	15	9	4	1	84

(ヒ) 病名内訳 (重複あり) (人)

統合失調症	うつ病	神経症	抑うつ状態	パニック障害
20	12	9	8	7
不安性障害	双極性感情障害	気分障害	不眠症	アルコール依存症
7	4	4	3	3
適応障害	急性錯乱状態	睡眠障害	人格障害	強迫性障害
3	2	2	2	2
その他				
12				

(ヘ) 区別内訳 (人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
4	7	1	7	4	0	2	6	1	2
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外	合計
4	2	2	7	2	3	3	3	24	84

(市外内訳 川崎市7人、相模原市2人その他の県内11人、県外4人)

4 総合相談事業

総合相談室は、精神障害者支援・要介護高齢者支援・地域医療機関支援を行う、横浜市総合保健医療センターの窓口として利用者のニーズを幅広く捉え、要援助者の在宅生活を支援しております。さらに、総合相談室を核として、各部門の有機的な連携を図ることにより専門的・総合的支援を行っております。平成23年度も、総合相談室に、保健師・社会福祉職など専門職を配置し、利用者や家族からの幅広い相談に応じ、適切なアドバイスを実施しました。

(1) 相談・情報提供

支援を要する高齢者や精神障害者等の方々の、保健・福祉・医療に関する相談に対応し適切な情報を提供することにより、住み慣れた地域で安心した生活が送られるよう支援しました。

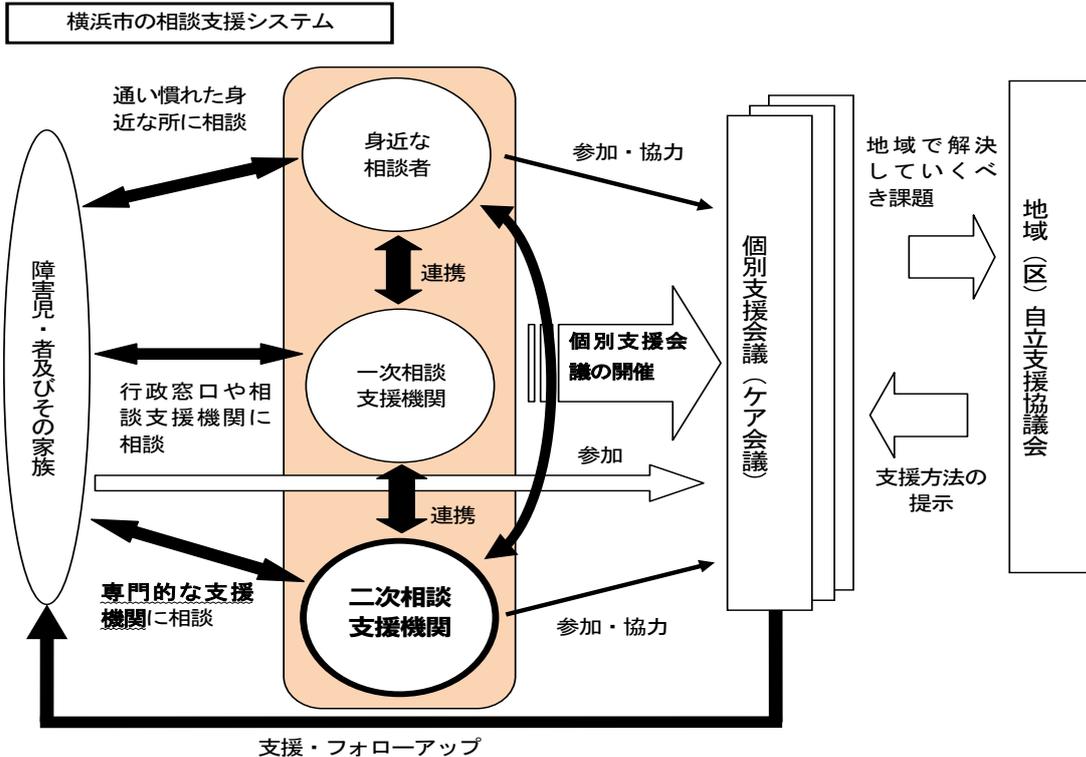
(件)

電話相談	窓口相談	合計
8,938	1,818	10,756

(2) 障害者二次相談支援事業

横浜市障害者相談支援事業要綱によって規定されている事業であり、平成15年度から実施されていますが、当センターでは平成19年10月より自立支援法の相談支援事業者になると共に、横浜市障害者相談支援システムの二次相談支援機関として位置付けられました。

平成20年度からは総合相談室に職員を配置し、障害者やその家族、一次相談支援機関からの相談に対し支援を行うとともに、港北区自立支援協議会、二次相談支援機関連絡会等に出席し、地域の相談支援事業を行いました。



二次相談事業実績

(件)

	電話	面接	訪問	会議出席	その他	合計
件数	296	131	15	92	216	750

(3) 入所判定会議（施設サービス受入会議）

平成12年4月より介護保険法が施行され、長期入所(施設サービス)者の受入を開始しました。受入の可否について、医師、看護師、ケアワーカー、管理栄養士、作業療法士、理学療法士、相談員（保健師、ソーシャルワーカー）等による会議を開き検討しました。

入所判定会議開催状況

		開催回数 (回)	利用希望者 (人)	受入結果		否の主な理由
				可 (人)	否 (人)	
介護老人	一般棟	19	26	26	0	病状不安定
保健施設	認知症棟	19	26	25	1	
診療所	療養病床	3	3	3	0	
合計		41	55	54	1	

(4) 評価会議

介護老人保健施設及び診療所入所者の情報を多職種で共有し、よりよいケアが出来るように評価会議を週1回開催しました。

参加スタッフは、医師、看護師、ケアワーカー、管理栄養士、作業療法士、理学療法士、臨床心理士、相談員（保健師、ソーシャルワーカー）等で構成しています。

評価会議開催状況

		開催回数 (回)	入所予定者 (初期) (人)	入所者 (中期) (人)	退所者 (退所時) (人)	合計 (人)
介護老人	一般棟	45	201	261	266	728
保健施設	認知症棟	43	118	159	152	429
診療所	在宅医療	47	192	211	205	608
	療養病床	27	9	19	24	52
合計		162	520	650	647	1,817

(5) 支援会議

精神障害者支援施設入通所者の支援目標及びご本人ご家族の希望などの情報を共有し、支援計画を作成するため支援会議を週2回～3回開催しました。

参加スタッフは、医師、ソーシャルワーカー、地域支援者（区福祉保健センター職員、病院のソーシャルワーカー）等で構成され、随時ご利用者本人及びそのご家族も参加して行いました。

		開催回数 (回)	入所予定者 (初期) (人)	入所者 (中期) (人)	退所者 (退所時) (人)	合計 (人)
精神障害者 支援施設	生活訓練	56	17	38	17	72
	就労訓練	65	38	60	18	116
合計		121	55	98	35	188

(6) ケアカンファレンス（ケアプラン会議）

施設利用者に対するサービス計画書を作成するために、ケアカンファレンス（ケアプラン会議）を週1回開催しました。参加スタッフは、医師、ケアマネジャー、看護師、ケアワーカー、管理栄養士、作業療法士、理学療法士、相談員（保健師、ソーシャルワーカー）等で、ケアプランの検討・修正・再評価・退所評価を行いました。

ケアカンファレンス開催状況

		開催回数 (回)	初期ケアプラン 件数 (件)	継続ケアプラン 件数 (件)	退所時ケアプラン 件数 (件)
介護老人 保健施設	一般棟	46	30	152	23
	認知症棟	40	38	77	32
診療所	療養病床	27	6	40	3
合計		113	74	269	58

5 総合保健医療センターにおける財団自主事業

指定管理者として自主的な企画・運営による自主事業を展開しています。これは当財団の「寄附行為」や「基本理念」に沿った公益的使命に基づいた事業内容となっています。

(1) 訪問看護ステーションみんなのつばさ

精神障害者の在宅医療支援、医療ニーズと介護ニーズを併せ持つ中重度高齢者に対する在宅支援により、センター機能の一層の充実を図ることを目指して、平成19年1月から訪問看護ステーション事業をスタートし、利用者数も年々増加しています。

訪問看護ステーションの利用者に統合失調症等の精神障害者が一定数含まれることは統計的に知られていましたが、訪問看護を開始してみて、医療から生活支援まで多機能の専門性を有する当センターであるからこそ、より質の高い支援ができることを実感しています。利用者一人に要する時間が長くなるなど効率性の面での課題もありますが、平成23年度も公益性と効率性の均衡を考えながら、センターの理念に沿った特徴ある運営に努め、利用者の在宅生活を支援してまいりました。

利用者数、延訪問件数、新規利用者数 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	94	96	94	97	99	97	98	100	99	103	102	100	1,179
延べ訪問件数	310	306	354	335	365	348	348	349	341	317	323	348	4,044
新規利用者	1	2	1	4	2	0	2	2	1	4	1	1	21

(2) シニアフィットネス事業

運動指導事業

高齢者や生活習慣病などの有疾患者に対し、診療所機能と密接な連携を図りながら、医療及び運動生理学の両面から運動処方を作成を行うとともに、身体機能の向上や寝たきり防止のための運動プログラムの提供及び実技指導を行いました。

- ・対象者 身体を動かすことによる健康づくり、介護予防に関心がある方で、主にシニア年齢の方が利用しています。
- ・内容 1回90分の教室を1日3回実施しています。教室の内容は、トレーニング機器を利用した有酸素運動や運動指導員による筋力アップ、ストレッチ体操などの集団体操を行っています。
- ・定員 1回15人
- ・料金 1時間帯 600円

◆月別延利用人数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
314	298	303	285	283	286	301	259	242	272	273	291	3,407

(3) 講演、講座等の市民サービス事業

ア 認知症支援講座

(ア) 認知症を理解するための家族教室

認知症の方を介護する家族に対し、認知症の理解と知識を深め、介護負担の軽減を図るための教室を開催しました。

- ・ 対象者 当センター診療所認知症診断外来受診者の家族
- ・ 内容 1コース4回（1回120分）とし、講義と懇談会を行いました。
- ・ 料金 1コース、一人3,000円
- ・ 実施回数 2回（延8回）
- ・ 参加者数 40人（延）

(イ) 認知症介護者カウンセリング

- ・ 料金 1回 3,000円（50分）
- ・ 利用者数 2人

(ウ) 認知症専門医派遣事業

各区役所から認知症の理解と知識を深めるための講演会等の依頼に対し、当センターの専門性を活かし、センターの認知症専門医を派遣し、認知症に関する知識の普及啓発を図るとともに、当センターの事業のPRを実施しました。

- ・ 対象者 認知症に関心のある市民
- ・ 内容 認知症専門医による、疾病に関する正しい知識の普及
- ・ 派遣回数 7回

イ 家族 SST セミナー

統合失調症の方がいる家族を対象に、統合失調症に関する理解を深め、当事者の回復が進んでいくコミュニケーションスキルを身につけていくことを目的に家族 SST セミナーを実施しました。

- ・ 対象者 横浜市内に在住で、統合失調症の方がいる家族
- ・ 内容 1クール5回で1回120～150分とし、講義とコミュニケーションスキルの演習を行いました。
- ・ 料金 1クール 6,500円
- ・ 実施回数 ファーストステップ 2回（延10回）、セカンドステップ 2回（延10回）
- ・ 参加者数 102人（延）

ウ 健康づくり講座

健康づくりや疾病の改善に関する情報が氾濫している中、専門医による健康講座を開催し、正確で正しい情報を市民に提供しました。

また、同じテーマで、平日及び土曜日に開催し、さまざまな方が参加しやすいように配慮しました。さらに、当センターの事業を紹介し必要に応じ個別相談を行いました。

- ・定員 各回100人
- ・開催回数 5回
- ・料金 500円(1人)

(人)

開催年月日	内 容	参加人数
平成 23 年 4 月 28 日	テーマ 明日から役に立つがん全般についての話し 講師 診療部長 久邇 之房	18
平成 23 年 5 月 26、28 日	テーマ LDLコレステロール・HDLコレステロールと 心臓病 講師 診療部担当部長 本郷 洋一郎	49
		41
平成 23 年 9 月 29、日 10 月 1 日	テーマ 内臓脂肪・メタボリック症候群と心臓病 講師 診療部担当部長 本郷 洋一郎	33
		16
平成 23 年 11 月 24、26 日	テーマ 高血圧と心臓病・脳卒中 講師 診療部担当部長 本郷 洋一郎	32
		7
平成 24 年 3 月 17、22 日	テーマ もし検診で血糖値やHbA1cが高いと言われたら 講師 診療部担当部長 本郷 洋一郎	11
		27
合 計		234

(4) 研修事業

ア 臨床研修医の受け入れ

質の高い医療を継続するには、研修医の質の高い教育が必須です。

当センターでは「地域医療」の研修機関として、平成23年度は横浜南部病院から2人、横浜市立大学附属市民総合医療センターから1人、横浜労災病院から5人を受け入れました。今後も教育プログラムの工夫を行い、受け入れを実施します。

- ・ 内 容 総合保健医療センターの診療所、精神障害者支援施設、介護老人保健施設での臨床研修を実施しました。
- ・ 対象者 医療機関で臨床研修を受講している医師。

イ ケアマネジャー研修

市内の居宅介護支援事業者のケアマネジャーを対象に研修会を開催し、センターとケアマネジャーの連携を強化し、センター事業をPRしました。

開催日時	第1回 平成23年11月12日(土) 13:30～
演 題	「コミュニケーション技法の見直し」 —利用者・家族との信頼関係を築くために—
講 師	東京工科大学医療保健学部看護学科 准教授 妹尾 弘子
参加者数	27人
開催日時	第2回 平成24年3月10日(土) 13:30～
演 題	「認知症の早期診断と新たな認知症の薬について」
講 師	地域精神保健部長 塩崎 一昌(精神科医師)
参加者数	64人

ウ 研修生の受け入れ

横浜市総合保健医療センターや生活支援センターが持つ機能や実績を活用し、各部門において専門職種の人材育成を目的として、研修生の受け入れを実施しました。

医学部、看護大学、看護専門学校、社会福祉系大学、医療技術系大学、学生や施設職員等を対象にしました。(受入一覧表次頁)

研修生受入一覧

受け入れ部門	実習期間		実習生依頼主	延	実習生職種等
	自	至			
介護老人保健施設	H23. 10. 17	H23. 10. 25	神奈川県立よこはま看護専門学校	42	専門学校生
介護老人保健施設	H23. 8. 1	H23. 8. 12	横浜市立大学	80	大学生
介護老人保健施設	H23. 10. 17	H23. 10. 25	日本看護協会	44	看護師
介護老人保健施設	H24. 2. 1	H24. 2. 14	横浜労災看護専門学校	40	専門学校生
精神科デイケア	H23. 5. 9	H23. 7. 15	上智大学	30	大学生
精神科デイケア	H23. 6. 6	H23. 7. 29	昭和大学	39	大学生
精神科デイケア	H23. 6. 20	H23. 7. 30	明治学院大学	23	大学生
精神科デイケア	H23. 8. 18	H24. 2. 21	大原医療秘書福祉専門学校	18	専門学校生
精神科デイケア	H23. 10. 24	H23. 11. 8	東京福祉保育専門学校	19	専門学校生
精神科デイケア	H23. 11. 21	H23. 12. 9	日本リハビリテーション専門学校	14	専門学校生
精神科デイケア	H24. 2. 6	H24. 2. 24	神奈川県立保健福祉大学	15	大学生
精神科デイケア	H24. 2. 7	H24. 3. 26	田園調布学園大学	24	大学生
生活訓練	H23. 8. 22	H23. 9. 30	目白大学	24	大学生
生活訓練	H23. 11. 1	H23. 11. 18	日本社会福祉事業大学	12	大学生
生活訓練	H24. 3. 6	H24. 3. 9	(社) こころの風元気村	4	相談員
生活訓練	H24. 3. 26	H24. 3. 30	(社) こころの風元気村	5	福祉職員
就労訓練	H23. 6. 1	H23. 6. 17	神奈川県立保健福祉大学	12	大学生
就労訓練	H24. 2. 20	H24. 3. 6	桜美林大学	12	大学生
就労支援センター	H23. 6. 20	H23. 8. 12	神奈川県立保健福祉大学	39	大学生
就労支援センター	H23. 8. 24		北里大学保健医療学部	5	大学生
就労支援センター	H23. 11. 21	H23. 12. 9	日本リハビリテーション専門学校	14	専門学校生
就労支援センター	H24. 2. 6	H24. 2. 24	神奈川県立保健福祉大学	15	大学生
神奈川区生活支援センター	H23. 6. 1	H23. 6. 17	神奈川県立保健福祉大学	12	大学生
神奈川区生活支援センター	H23. 7. 25	H23. 7. 30	アルファ医療福祉専門学校	6	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H23. 8. 2	H23. 8. 20	YMCA福祉専門学校	12	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H23. 8. 21	H23. 8. 28	アルファ医療福祉専門学校	6	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H23. 8. 22	H23. 8. 27	アルファ医療福祉専門学校	6	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H23. 9. 1	H23. 9. 20	東洋英和女学院大学	12	大学生
神奈川区生活支援センター	H23. 9. 21	H23. 9. 27	アルファ医療福祉専門学校	6	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H23. 9. 21	H23. 10. 4	アルファ医療福祉専門学校	12	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H23. 10. 9	H23. 10. 14	アルファ医療福祉専門学校	6	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H23. 10. 31	H23. 11. 2	横浜労災看護専門学校	75	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H23. 11. 1	H23. 11. 6	アルファ医療福祉専門学校	6	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H23. 11. 10	H23. 11. 15	アルファ医療福祉専門学校	6	専門学校生

受け入れ部門	実習期間		実習生依頼主	延	実習生職種等
	自	至			
神奈川区生活支援センター	H23. 12. 1	H23. 12. 6	アルファ医療福祉専門学校	6	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H23. 12. 9	H23. 12. 9	横浜市立大学医学部看護学科	2	大学生
神奈川区生活支援センター	H24. 1. 9	H24. 1. 14	アルファ医療福祉専門学校	6	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H24. 1. 23	H24. 2. 7	横浜市病院協会看護専門学校	18	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H24. 3. 3	H24. 3. 18	田園調布学園大学	12	大学生
磯子区生活支援センター	H23. 6. 1	H23. 6. 17	神奈川県立保健福祉大学	12	大学生
磯子区生活支援センター	H23. 8. 1	H23. 8. 23	YMC A福祉専門学校	12	専門学校生
磯子区生活支援センター	H23. 9. 1	H23. 10. 8	目白大学	24	大学生
磯子区生活支援センター	H23. 10. 24	H23. 11. 7	東洋英和女学院大学	12	大学生
磯子区生活支援センター	H23. 12. 9	H23. 12. 9	横浜市大看護学部看護学科	1	大学生
磯子区生活支援センター	H23. 12. 9	H23. 12. 9	横浜市大看護学部看護学科	1	大学生
磯子区生活支援センター	H23. 12. 9	H23. 12. 9	横浜市大看護学部看護学科	1	大学生
磯子区生活支援センター	H24. 1. 23	H24. 2. 7	横浜市病院協会看護専門学校	10	専門学校生
磯子区生活支援センター	H24. 1. 23	H24. 2. 7	横浜市病院協会看護専門学校	10	専門学校生
磯子区生活支援センター	H24. 2. 6	H24. 2. 21	田園調布学園大学	12	大学生
港北区生活支援センター	H23. 6. 1	H23. 6. 17	神奈川県立保健福祉大学	12	大学生
港北区生活支援センター	H23. 7. 1	H23. 7. 20	上智社会福祉専門学校	12	専門学校生
港北区生活支援センター	H23. 8. 2	H23. 8. 20	YMC A福祉専門学校	12	専門学校生
港北区生活支援センター	H23. 12. 9	H23. 12. 9	横浜市大医学部看護学科	8	大学生
港北区生活支援センター	H24. 1. 23	H24. 2. 7	横浜市病院協会看護専門学校	3	専門学校生
合 計			54 件	881	

6 ボランティア受入

(1) ボランティア

横浜市総合保健医療センターでは、多くのボランティアの方に協力していただき、平成23年度は延671人の方々に各部門（主に介護老人保健施設「しらさぎ苑」）でご利用者のレクリエーション、話し相手、食事などの活動をしていただきました。

また、ボランティアの方とセンター職員との間で、連絡会を開催し、様々なご意見をいただき、施設運営に反映しています。

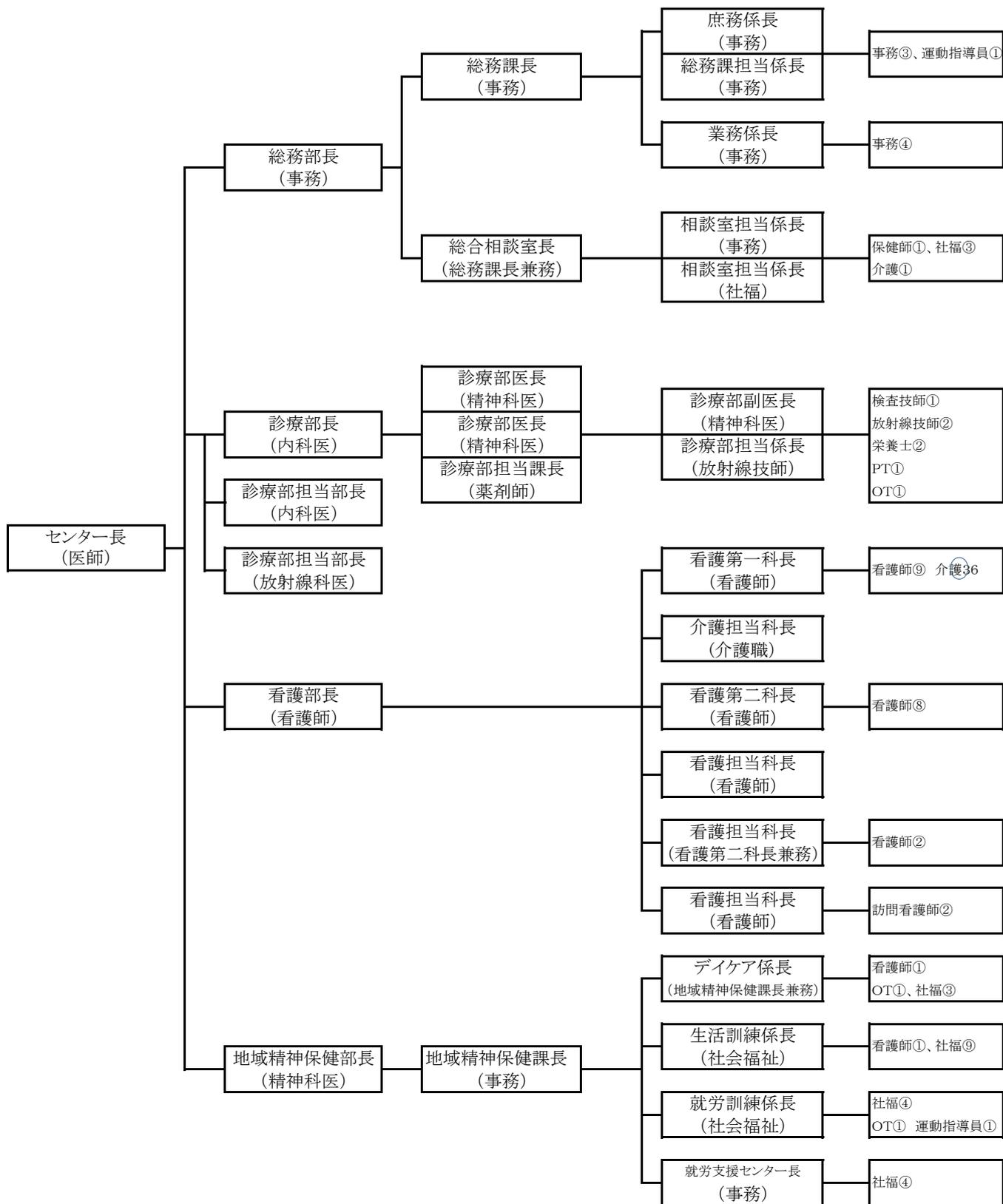
(2) 見学者受入情報

当センター事業に対する理解を得るために、3件、42人の見学を受け入れました。

(人)

	国・自治体関係	海外	合計
受入機関数 (件)	2	1	3
受入人数 (人)	34	8	42

7 横浜市総合保健医療センター組織図(平成24年3月31日)



○の中の数字は職員数

Ⅲ 精神障害者生活支援センター管理運営事業

生活支援センターは、地域で生活する精神障害者の日常生活の支援、相談、地域交流活動の促進等を行うため設置され、精神障害者一人ひとりが、地域の中で安心して自分らしい生活を送れるように様々な支援をします。

総合保健医療財団では、これまでの神奈川県生活支援センター、磯子区生活支援センターのほか、平成21年6月から新たに港北区生活支援センターの指定管理者となり、市内3か所(3区)の生活支援センターを運営しました。

横浜市の生活支援センターは、全国でも少ない公設民営の施設ですが、自立支援法の施行にともない、今後の事業内容の検討が行われています。当財団としては、今後、地域の身近な施設として相談支援事業の重要性が高まることを想定し、生活支援センターにおけるケアマネジメント能力の強化に努めることとしております。

1 横浜市神奈川区精神障害者生活支援センター

神奈川区生活支援センターは、運営を横浜市から受託し、平成11年5月から業務を開始しました。日常生活相談や食事、入浴サービス等を実施したほか、くつろぎの場としての環境整備や出会いの場・仲間づくりとしてイベント等を行い、地域の各機関と連携を取りながら、地域で暮らす精神障害者の生活支援、自立に向けての援助を実施しました。また、平成18年10月より長期入院者の退院促進支援モデル事業に取り組み、平成19年度から本格実施となりました。

(1) 開設場所 横浜市神奈川区反町1-8-4 「はーと友神奈川」4階

(2) 利用時間 午前9時から午後9時まで

毎月第一月曜日休館（第一月曜日が祝日と重なる場合は、翌日休館）

(3) 利用状況及び支援内容

ア 利用者数内訳

(人)

(日)

全体	内訳					
	本人(男性)	本人(女性)	家族	ボランティア等	電話	訪問同行
33,167	12,385	3,341	49	358	16,814	220

開所日数
354

イ 相談支援

(人)

合計	電話(再掲)		面接		訪問・同行(再掲)		面接(非構造)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
20,308	7,478	9,336	588	437	143	77	1,350	899
1日平均	47.5		2.9		0.6		6.4	

(人)

嘱託医相談(精神科・内科)				
実施回数	合計	男性	女性	家族等
47回	36人	24	12	0

ウ 生活支援

(人)

食事サービス			入浴サービス			インターネットサービス		
合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
8,695	6,073	2,622	3,851	3,562	289	616	448	168
1日平均	24.6		1日平均	10.9		1日平均	1.7	

(4) 利用登録内訳

利用登録の有無にかかわらずセンターは利用できますが、食事、入浴サービスを利用する場合には登録が必要です。

ア 男女別・年齢別

(人)

(歳)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～(歳)	合計
男性	1	33	126	200	141	137	638
女性	1	13	74	93	58	43	282
合計	2	46	200	293	199	180	920

最高	最低	平均
88	19	48.5
78	19	46.1
88	19	47.7

イ 区別内訳

(人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
106	357	16	68	53	17	36	24	16	13
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外他	合計
82	22	6	11	14	5	11	11	52	920

(5) 自主企画事業

スタッフが企画をしているプログラム以外に、利用者が中心となって企画運営を行うサークル活動があります。また、地域住民を対象としたボランティア講座や、家族を対象とした家族教室等も実施しています。

	名称	回数	参加人数
プログラム・行事	利用者ミーティング	12	99
	映画会	12	63
	昼食会	12	61
	季節行事（お正月、ひなまつり、お花見、花火見物）	6	49
	バスハイク・バスハイク実行委員会	2	47
	カラオケアワー	14	131
	就労相談	3	3
	就労講座・SST	23	125
	パソコン講座	4	10
	ピア活動	19	194
	地域生活支援事業（ふらっとほっと菅田）	25	107
	リワークフォローアップ事業	13	93
	退院促進啓発事業、打合せ	16	300
サークル	スポーツサークル	14	129
	Café de すいーつ	12	68
	カメラの会	6	16
その他	家族講座	2	54
	消防訓練	3	25
	神奈川区生活支援センター運営連絡会	2	46
	夕食サービス向上委員会	12	98
合計		212	1,718

(6) 地域交流

名称	回数	人数
福祉まつり、お祭りを楽しむ会実行委員会	2	8
町内会、盆踊り	2	7
わかば会（家族会）例会	7	26
納涼会、納涼会会議	2	117
クリスマス会、クリスマス会打ち合わせ	3	144
にじの会お茶会	10	312
新春の集い	1	110
通所施設（浦島共同作業所、青桐茶房、せせらぎ、ひかりの里、ほのぼの、ペガサス、わかば工芸）運営委員会	27	27
法人（ペガサスの会、ドレミファ会）運営委員会、総会	3	84
にじの会（ボランティア）例会	9	9
喫茶コーナー（せせらぎ）	28	670
合計	94	1,514

(7) 地域会議等

名称	回数	人数
神奈川区自立支援協議会	10	11
神奈川区スタッフ連絡会	3	31
退院促進支援協議会	12	15
はーと友事務連絡会	4	4
市精連 横浜精神保健福祉研究所スタッフ会議	4	4
合計	33	65

(8) 地域移行・地域定着支援事業

平成 18 年 10 月からのモデル事業に引き続き、平成 19 年度から本格実施しています。

平成 23 年度は、対象者に延べ 1,887 回支援を行い、支援対象者 13 人のうち 5 人が退院しました。

支援対象者数	病 名	帰 結	退院後の帰来先	その他
13 人	<ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症 12 人 ・その他 1 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院 5 人 ・支援継続 6 人 ・支援終了 2 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活訓練施設 2 人 ・自宅 1 人 ・救護施設 1 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 人

23年度も、鶴見西井病院及び紫雲会横浜病院で当事者及び病院関係者を対象として、ピアサポーターやボランティアも参加し、同事業の啓発活動（体験発表・資源紹介・交流会）を実施しました。

実施場所	実施回数	参加当事者数	参加支援者数
紫雲会横浜病院	7回	96人	80人
鶴見西井病院	8回	138人	84人

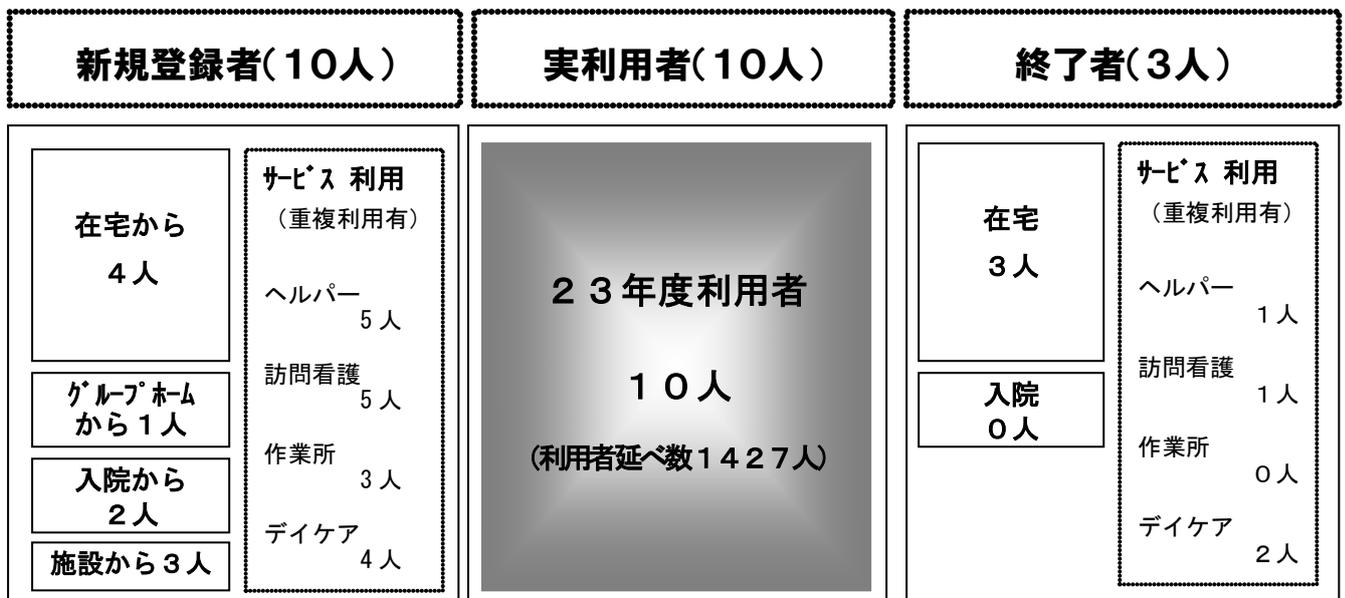
(9) 横浜市障害者自立生活アシスタント事業

単身等で生活する方を対象に、アウトリーチ型の生活支援を展開します。訪問の他に必要に応じて外出同行なども行います。事業開始となった今年度の実利用者は10人でした。

「一人暮らしを始めるのでサポートを受けたい」「金銭管理がうまくできるようになりたい」などの個別のニーズに対応しながら、施設の専門性を活かし、利用者の社会適応力・生活力を高めるオーダーメイドの支援を展開します。

本人のストレングスを活かした支援、本人にとってより自分らしい地域での生活を目指します。

平成23年度 自立生活アシスタント 利用者の状況



本表は23年度中における登録、利用、終了の状況をそれぞれ示したものである。したがって利用者及び終了者は23年度中の終了者とは限らない。

23年度利用者の状況、支援方法・内容

<世代別・男女別>

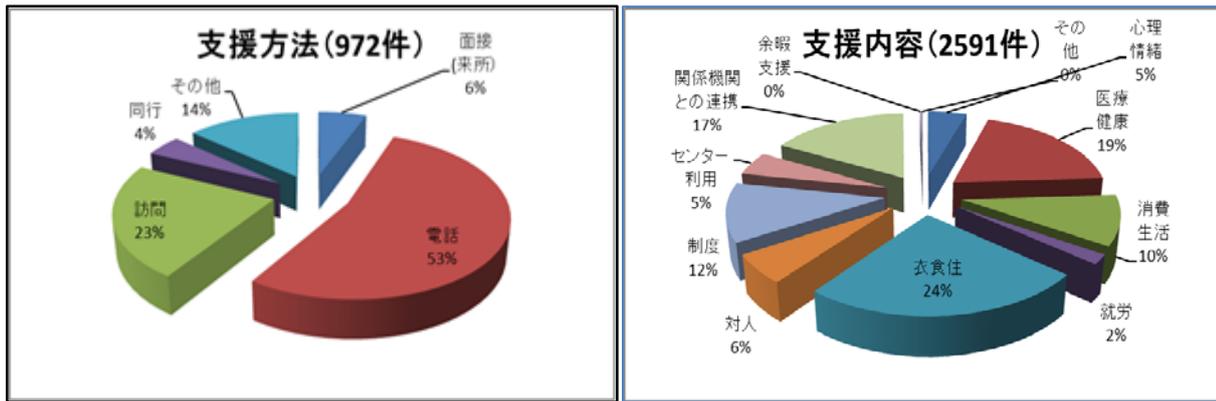
	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性		2	1	2		5
女性	1	2	1		1	5
計	1	4	2	2	1	10

<利用目的>

①自立生活 (②以外)	②自立生活 (同居家族 の高齢化・ 死亡)	③退所後の 生活の安定	④退院後の 生活の安定	⑤その他	合計
4		4	2		10

<世帯状況>

家族同居	単身	合計
0	10	10



(10) 地域支援事業

平成 21 年 1 月から

- ア 地域住民を対象とした精神保健福祉に関する普及啓発活動
- イ 精神疾患を有する人等を対象とした講座や居場所づくり
- ウ 利用につがっていない当事者、家族の把握・支援を実施しています。

今年度は、菅田地域ケアプラザにおいて、フリースペース「ふらっとホット菅田」として、毎月 2 回のペースでお菓子作りやストレッチなどを通して交流・相談を行いました。

(11) 復職サポートプログラムフォローアップ事業

平成 22 年 5 月から、総合保健医療センター精神科デイケアの「復職サポートプログラム」の修了者を対象として、生活面のフォローアップを行う事業を毎月 1 回実施しています。

(12) 発達障害者支援事業

今年度はモデル事業として、3 人の方を対象に発達障害者支援センターと連携を取りながら、全 6 回の日常生活スキル講座を行いました。

2 横浜市磯子区精神障害者生活支援センター

磯子区生活支援センターは、横浜市から運営を受託し、平成18年11月から業務を開始しました。同時に指定相談支援事業者の指定を受け、日常生活相談や食事、入浴サービス等を実施したほか、くつろぎの場としての環境整備や出会い・仲間づくりの場としてイベント等を行い、地域の各機関と連携を取りながら、地域で暮らす精神障害者の生活支援、自立に向けての援助を実施しました。

(1) 開設場所 横浜市磯子区森 4-1-17 3階

(2) 利用時間 午前9時から午後9時まで

毎月第二火曜日休館（第二火曜日が祝日と重なる場合は、翌日休館）

(3) 利用状況及び支援内容

ア 利用者数内訳

(人)

(日)

全体	内訳					
	本人(男性)	本人(女性)	家族	ボランティア等	電話	訪問同行
26,319	6,497	3,737	447	301	15,159	178

開所日数
354

イ 相談支援

(人)

合計	電話		面接		訪問・同行		面接(非構造)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
19,005	7,369	7,790	723	394	67	111	1,760	791
1日平均	42.8		3.2		0.5		7.2	

(人)

嘱託医相談(精神科・内科)				
実施回数	合計	男性	女性	家族等
48回	43人	15	22	6

ウ 生活支援

(人)

食事サービス			入浴サービス			洗濯サービス		
合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
5,997	4,001	1,996	1,563	856	707	389	203	186
1日平均	16.9		1日平均	4.4		1日平均	1.1	

(人)

インターネットサービス		
合計	男性	女性
661	322	339
1日平均	1.9	

(4) 利用登録内訳

ア 男女別・年齢別

(人)

(歳)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	2	41	121	187	103	61	515
女性	3	41	123	133	62	48	410
合計	5	82	244	320	165	109	925

最高	最低	平均
85	14	45.0
79	17	43.7
85	14	44.4

イ 区別内訳

(人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
6	15	2	44	83	85	18	13	405	140
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外	合計
8	8	4	4	23	16	10	7	34	925

(5) 自主企画事業

スタッフが企画をしているプログラム以外に利用者と一緒に作り上げていくプログラムや、利用者が中心になって企画運営を行うサークル活動等を実施しています。

(人)

名 称		回数	参加人数
プログラム・行事	利用者ミーティング	13	70
	昼食会・クリスマス会	12	128
	書道教室	12	50
	5周年記念感謝祭（2日間）（屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同）	1	735
	カフェ De 屏風ヶ浦	42	298
	季節行事（初詣、お花見、年賀状づくり）	4	22
サークル	楽器を鳴らす日	12	89
	アートの会	12	66
	シニアの会	8	30
	ラジオ体操の会	3	14
その他	統合失調症の当事者学習会	3	16
	うつ病の当事者交流会	12	49
	磯子区生活支援センター運営連絡会	2	52
	利用者向け運営報告会	2	19
	防災訓練（屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同）	2	22
	就労者の会	4	15
	屏風ヶ浦ヒストリー講演会、パネル作成の会	2	19
合 計		146	1,694

(6) 地域交流

地域の関係機関、団体及び地域住民との連携や交流をしています。

(人)

名 称	回数	参加人数
根岸地域ケアプラザ相談会	12	12
ボランティア講座、講座打合せ	6	13
なぎさ会（家族会）総会、例会	12	18
通所施設（工房タッチ、シャロームの家、いぶき）運営委員会・総会	10	10
その他	3	4
合 計	43	57

(7) 地域会議等

区の自立支援協議会を始め、地域の会議に参加し、課題の把握や情報の共有化等を行っています。

(人)

名 称	回数	参加人数
磯子区自立支援協議会	7	7
発達障害児・者ネットワーク連絡会(はっちネット)	12	14
横浜市生活支援センター連絡会(研修含む)	7	9
その他	10	10
合 計	36	40

(8) 家族支援及び地域支援事業

統合失調症の方のご家族、うつ状態の方の家族への支援及び地域住民への普及啓発を行っています。

地域住民向けの普及啓発では、地元自治会や地域ケアプラザの協力を得て開催することができました。

(人)

名 称	回数	参加人数	
統合失調症「家族交流会」、「家族学習会」	7	71	
うつ病「家族交流会」	12	90	
地域住民向け教室	民生委員児童委員協議会勉強会	2	—
	地域ケアプラザとの共催	8	104
合 計	29	265	

(9) 普及啓発

毎月発行している「センターだより」とは別に、広報紙「うえるかむ」を地元町内会、区内地域ケアプラザ、地区センター等へ配布し、地域住民への普及啓発に取り組んでいます。また、施設紹介のパンフレットを更新発行しました。

(10) 地域移行・地域定着支援事業

平成23年度から新規事業として実施しています。

平成23年度は、3人の対象者に延べ329回の支援を行ないました。

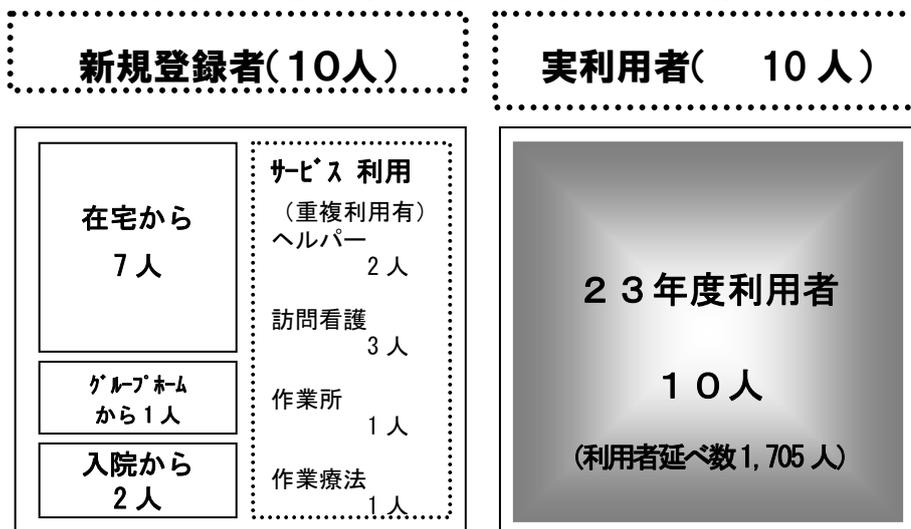
支援対象者数	病名	帰結	退院後の帰来先
3人	・統合失調症 2人 ・その他 1人	・退院 0人 ・支援継 3人 ・支援終了 0人	・生活訓練施設 0人 ・自宅 0人 ・救護施設 0人

23年度は、日野病院、芹香病院及び丘の上病院で当事者及び病院関係者を対象として、同事業の啓発活動（体験発表・資源紹介・交流会）を実施しました。（延べ156人参加）

(11) 横浜市障害者自立生活アシスタント事業

単身等で生活する方を対象に、アウトリーチ（訪問）による生活支援を展開します。平成23年度より、当支援センターにおいて事業を開始しました。「自分にあった片づけ方を知り、生活空間を居心地よくしたい」「グループホームから出て一人暮らしをするのでサポートを受けたい」「金銭管理がうまくできるようになりたい」などのニーズに個別に対応しながら、地域のサービスへの橋渡し、支援ネットワーク作りなどを行います。本人の強み（長所）を活かした支援、本人にとってより自分らしい生活を目指します。

平成23年度 自立生活アシスタント 利用者の状況



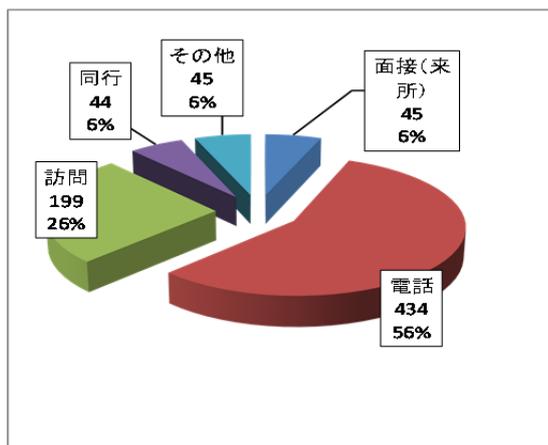
23年度利用者の状況、支援方法・内容

<世代別・男女別>						
	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	1	1	1	0	1	4
女性	0	1	2	2	1	6
計	1	2	3	2	2	10

<利用目的>					
①自立生活 (②以外)	②自立生活 (同居家族の 高齢化・死亡)	③退所後の 生活安定	④退院後の 生活安定	⑤その他	合計
6	0	1	3	0	10

<世帯状況>		
家族同居	単身	合計
1	9	10

支援方法(767件)



支援内容(1592件)

